ミノルタ株式会社
ミノルタ販売株式会社

フォトサポートセンター

弊社製品のカメラ、交換レンズ、デジタルカメラ、フィルムスキャナ、露出計など写真や画像に関わる製品の機能、使い方、撮影方法などのお問い合わせをお受けいたします。

ナビダイヤル 0570-007111
ナビダイヤルは、お客様が日本全国どこからかけても市内通話料金で通話していただけるシステムです。

TEL 03-5351-9410
携帯電話・PHS等をご使用の場合はこちらをご利用ください。

FAX 03-3356-6303

受付時間 10:00～18:00（土・日・祝日定休）

下記ホームページでもデジタル製品に関する情報を提供しております。
http://www.dimage.minolta.co.jp/

1AG6P1P1368--
9223-2777-61 SY-B205

The essentials of imaging

www.minolta.com

DiMAGE F100

J 使用説明書

AUTO撮影
マニュアル撮影
動画撮影 音声記録
再生
通信 セットアップ

目次

撮影前の準備

撮影前に準備しておくこと、知っておいて欲しいことについて説明しています。

AUTO撮影編

面倒な設定はカメラ任せでOK、シャッターボタンを押すだけで簡単に撮影できます。

AUTO撮影編（続き）

面倒な設定はカメラ任せでOK、シャッターボタンを押すだけで簡単に撮影できます。

マニュアル撮影編

カメラの機能を活用して。撮影者の意図を反映させた撮影ができます。

動画撮影編

最長35秒までの動画を撮影できます。

音声記録（ボイスレコーディング）編

連続最長30分までの音声記録ができます。

（次ページに続く ☞）

目次

再生編
撮った画像の再生・消去の他、プリント指定や画像コピー、Eメール用画像作成ができます。

セットアップ編
カメラの細かな設定を変更できます。

通信編
デジタルカメラとパソコンを接続して、画像データをやり取りする方法について説明しています。

その他
注意事項や、「故障?」と思ったときに知っておいて欲しいことなどについて説明しています。

正しく安全にお使いいただくために

お買い上げありがとうございます。
ここに示した注意事項は、正しく安全に製品をお使いいただくために、またあなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。よく理解して正しく安全にお使いください。

この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が死亡したり、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が予想される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は、注意を促す内容があることを告げるものです。（左図の場合は発熱注意）

警告

電池の取り扱いを誤ると、液漏れによる周囲の汚損や、発熱や破裂による火災やケガの原因となりますので、次のことは必ずお守りください。

- **指定された電池以外は使わないでください。**
- **電池の極性（＋／－）を逆に入れないでください。**
- **表面の被膜が破れたり、はがれたりした電池は使用しないでください。**
- **電池のショート、分解、加熱、および火中・水中への投入は避けてください。また金属類と一緒に保管しないでください。**
- **新しい電池と古い電池、メーカーや種類の異なる電池、充電状態の異なる電池を混ぜて使用しないでください。**
- **アルカリ電池は充電しないでください。**
- **充電式電池を充電する場合は、専用の充電器をご使用ください。**
- **万一電池が液漏れし、液が目に入った場合は、こすらずにきれいな水で洗った後、直ちに医師にご相談ください。液が手や衣服に付着した場合は、水でよく洗い流してください。また、液漏れの起こった製品の使用は中止してください。**

警告

ACアダプターをご使用になる場合は、専用品を表示された電源電圧で正しくお使いください。
表示以外の電源電圧を使用すると、火災や感電の原因となります。

電池を廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁してください。
他の金属と接触すると発熱、破裂、発火の原因となります。お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄するか、リサイクルしてください。

ご自分で分解、修理、改造をしないでください。
内部には高圧部分があり、触れると感電の原因となります。修理や分解が必要な場合は、お買い求めの販売店または最寄りの弊社サービスセンター・サービスステーションにご依頼ください。

落下や損傷により内部、特にフラッシュ部が露出した場合は、内部に触れないように電池を抜き（ACアダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。
フラッシュ部には高電圧が加わっていますので、感電の原因となります。またその他の部分も使用を続けると、感電、火傷、火災の原因となります。お買い求めの販売店または最寄りの弊社サービスセンター・サービスステーションに修理をご依頼ください。

幼児の口に入るような電池や小さな付属品は、幼児の手の届かないところに保管してください。
幼児が飲み込む原因となります。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。

製品および付属品を、幼児・子供の手の届く範囲に放置しないでください。
幼児・子供の近くでご使用になる場合は、細心の注意をはらってください。ケガや事故の原因となります。

フラッシュを人の目の近くで発光させないでください。
目の近くでフラッシュを発光させると視力障害を起こす原因となります。

警告

車などの運転者に向けてフラッシュを発光しないでください。
交通事故の原因となります。

自動車などの運転中や歩行中に撮影したり、モニターを見たりしないでください。
転倒や交通事故の原因となります。

ファインダーを通して太陽や強い光を見ないでください。
視力障害や失明の原因となります。

風呂場など湿気の多い場所で使用したり、濡れた手で操作したりしないでください。内部に水が入った場合はすみやかに電池を抜き（ACアダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。
使用を続けると、火災や感電の原因となります。お買い求めの販売店または最寄りの弊社サービスセンター・サービスステーションにご連絡ください。

引火性の高いガスの充満している中や、ガソリン、ベンジン、シンナーの近くで本製品を使用しないでください。また、お手入れの際にアルコール、ベンジン、シンナー等の引火性溶剤は使用しないでください。
爆発や火災の原因となります。

ACアダプターをご使用の場合、電源コードに重いものを乗せたり、無理に曲げたり、引っ張ったり、傷つけたり、加熱、破損および加工したりしないでください。またコンセントから抜くときは、アダプター本体を持って抜いてください。
コードが傷むと火災や感電の原因となります。コードが傷んだら、販売店または最寄りの弊社サービスセンター・サービスステーションに交換をご依頼ください。

警告

万一使用中に高熱、焦げ臭い、煙が出るなどの異常を感じたら、すみやかに電池を抜き（ACアダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。電池も高温になっていることがありますので、火傷には十分注意してください。
使用を続けると感電、火傷、火災の原因となります。お買い求めの販売店または最寄りの弊社サービスセンター・サービスステーションに修理をご依頼ください。

注意

車のトランクやダッシュボードなど、高温や多湿になるところでの使用や保管は避けてください。
外装が変形したり、電池の液漏れ、発熱、破裂による火災、火傷、ケガの原因となります。

長時間使用される場合は、皮膚を触れたままにしないでください。
本体の温度が高くなり、低温やけどの原因となることがあります。

長時間の使用後は、すぐに電池やSDメモリーカードを取り出さないでください。
熱くなっているため火傷の原因となります。電源を切って温度が下がるまでしばらくお待ちください。

発光部に皮膚や物を密着させた状態で、フラッシュを発光させないでください。
発光時に発光部が熱くなり、火傷の原因となります。

液晶モニターを強く押したり、衝撃を与えたりしないでください。
液晶モニターが割れるとケガの原因となり、中の液体に触れると炎症の原因となります。中の液体に触れてしまった場合は、水でよく洗い流してください。万一目に入った場合は、洗い流した後医師にご相談ください。

正しく安全にお使いいただくために

⚠注意

ACアダプター使用時は、電源プラグは差し込みの奥までしっかりと差し込んでください。
電源プラグが傷ついていたり、差し込みがゆるい場合は使用しないでください。火災や感電の原因となります。

ACアダプターを布や布団で覆ったり、周りに物を置いたりしないでください。
熱により変形して感電や火災の原因となったり、非常時にアダプターが抜けなくなったりします。

お手入れの際や長期間使用しないときは、ACアダプターをコンセントから抜いてください。
火災や感電の原因となります。

ユーザー登録について

本製品をお使いになる前に、お早めにユーザー登録をお済ませください。同梱されているユーザー登録カードに記載の弊社ホームページでオンライン登録を行うか、登録カードに記入して送付してください。

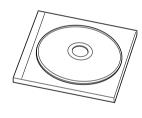
この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は家庭環境で使用されることを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受像機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書にしたがって正しい取り扱いをしてください。

内容物の確認

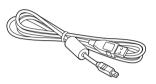
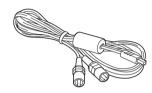
お買い上げのパッケージに梱包されているものは以下の通りです。ご確認の上、不備な点がございましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。

カメラ本体（DiMAGE F100）

二酸化マンガンリチウム電池
CR-V3

DiMAGEソフトウェア CD-ROM

ハンドストラップ HS-DG100

16MB SDメモリーカード

USBケーブル USB-500

AVケーブル AVC-200

IRリモコン RC-3

本体 使用説明書（本書）

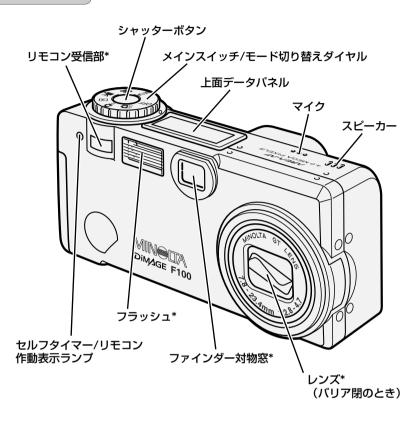
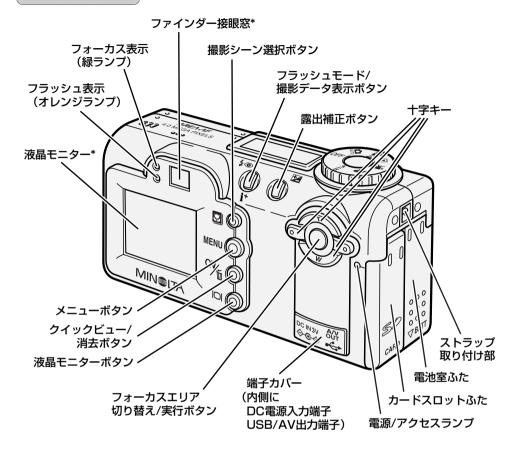
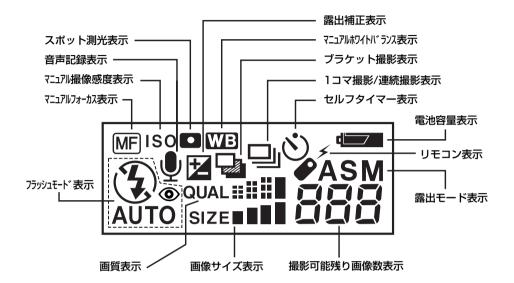
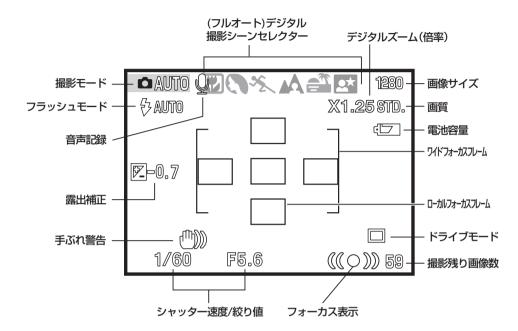
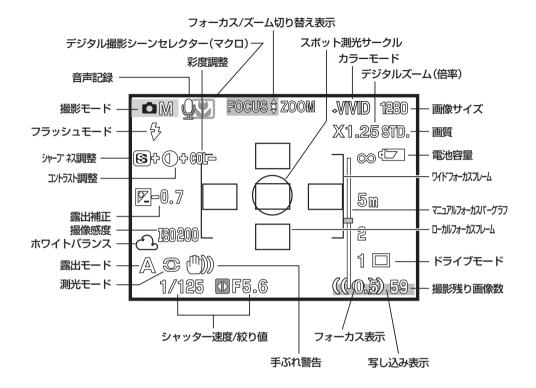
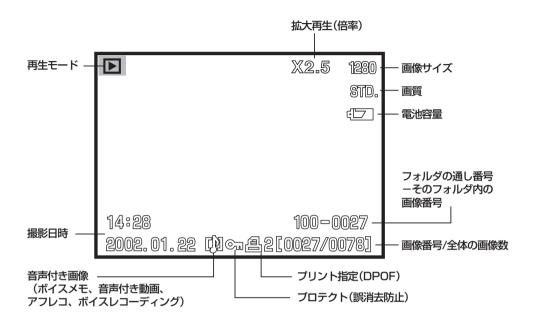
DiMAGE Viewer（ディマージュ ビューアー） 使用説明書
（ソフトウェア DiMAGE Viewer用）

アフターサービスのご案内

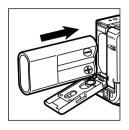
保証書（ユーザー登録カード）

各部の名称

*の付いたところは直接手や指で触れないでください。

ボディ前面

ボディ背面

上面データパネル

液晶モニター（AUTO撮影時）

液晶モニター（マニュアル撮影時）

液晶モニター（再生モード、1コマ再生時）

準備をする

1. 電池を入れます。→ P. 20

2. SDメモリーカードを入れます。
   → P. 22

撮影する → P.27

1. メインスイッチ/モード切り替えダイヤルを AUTO に合わせます。
2. 上下の十字キーで撮りたいものの大きさを決めます。
3. シャッターボタンを半押しします。
4. シャッターボタンを押し込んで撮影します。

撮影した画像を確認する（クイックビュー）→ P.41

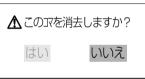
1. 撮影後、クイックビュー/消去ボタンを押します。
2. 左右の十字キーで、見たい画像を選びます。
3. メニューボタンを押すと元の撮影モードにもどります。

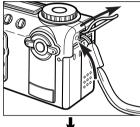
撮影した画像を消去する → P.42

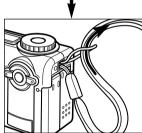
1. 撮影後、クイックビュー/消去ボタンを押します。
2. 左右の十字キーで、消去したい画像を選びます。
3. もう一度クイックビュー/消去ボタンを押します。

4. 右の画面が出た後、十字キーの左側で「はい」を選び、十字キーの中央を押すと消去されます。

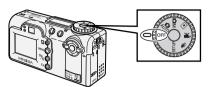
●「いいえ」のままで十字キーの中央を押すと消去されません。

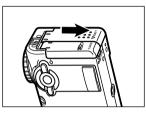
5. シャッターボタンの半押し、または、メニューボタンで元の撮影モードにもどります。

撮影前の準備

【ストラップの取り付け方】

1. ストラップ取り付け部に、ストラップの短い方を通します。

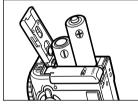
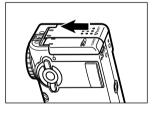
●先端を細くして通してください。
●取り付け部に対して垂直に押し込むようにすると通りやすくなります。通らない場合は、先の細いもので先端を引っ張り出してください。

2. 通したストラップの輪に、もう一方の端を通して引っ張ります。

電池の入れ方

付属の二酸化マンガンリチウム電池（CR-V3）1本、または、単3形ニッケル水素電池 2本 を使用します。
●ニッケル水素電池は、指定の充電器でフル充電してからお使いください。

1. メインスイッチ/モード切り替えダイヤルをOFFに合わせます。

●電池を入れる前に、かならずメインスイッチ/モード切り替えダイヤルをOFFに合わせてください。

2. 電池室ふたを、図の矢印の方向に少しスライドさせて開きます。

二酸化マンガンリチウム電池の場合

単3形ニッケル水素電池の場合

3. 電池室内部の＋/－表示にしたがって、電池を入れます。

4. 電池室ふたを閉じ、そのままふたを矢印の方向に止まるまでスライドさせます。

（次ページに続く ☞）

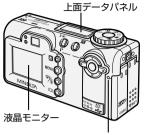
電池の入れ方

電池容量の確認

メインスイッチ/モード切り替えダイヤルをOFF以外に合わせると、電池の容量が上面データパネルと液晶モニター画面右上に表示されます。

上面データパネル	液晶モニター	電池容量
点灯	(**白色**)点灯(約5秒間)	**電池容量は十分です。**
点灯	(**白色**)点灯(約5秒間)	**電池容量が少なくなりました。** ●節電のためフラッシュ発光直後は液晶モニターが消灯します。
点灯	(**赤色**)点灯	**電池の交換をおすすめします。** ●この状態でもまだ撮影はできます。 ●節電のためフラッシュ発光直後は液晶モニターが消灯します。
のみ点滅	電池がなくなりました	**新しい電池と交換してください。** シャッターは切れません。

- 何も表示されないときは、電池の向き(+/−)を確認してください。
- 長時間の撮影や再生には、別売のACアダプター AC-6の使用をおすすめします。→ P. 189
- ACアダプターを使用するときは、電池はカメラから抜いてください。
- 二酸化マンガンリチウム電池 CR-V3、および、ニッケル水素電池以外の種類の電池は、性能が保証できませんので、このカメラには使用しないでください。
- 電池容量がなくなったとき(上面データパネルに のみ点滅し、液晶モニターに「電池がなくなりました」と表示されたとき)は、**その電池は再使用しないでください**。すみやかに新しい電池と交換してください。

パワーセーブ(操作しないでいると表示が自動的に消えます)

このデジタルカメラは、約30秒以上何も操作をしないでいると、節電のため自動的に液晶モニターが消灯します。また約1分以上何も操作をしないでいると、自動的に上面データパネルも消灯します(パワーセーブ)。

何かボタンやキーを押すか、メインスイッチ/モード切り替えダイヤルを回せば、操作が再開できます。

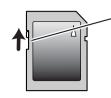
- パワーセーブまでの時間(初期設定は1分)を変更することができます。→ P. 154
- パワーセーブ状態になってから3分間は、電源/アクセスランプが緑色で点滅します。

日付・時刻設定のバックアップについて

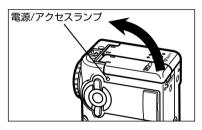
カメラから電池を取り出し、かつ、ACアダプターも接続しないで一定時間以上放置すると(目安として1時間程度)、日付・時刻の設定が失われ、2002.01.01　00：00 にリセットされます。
この場合カメラの電源を入れると、「日付・時刻を設定してください」というメッセージが表示されます。167、168ページの手順にしたがって、日付と時刻を設定し直してください。

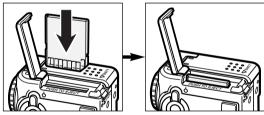
SDメモリーカードの入れ方/取り出し方

入れ方

画像を記録するには、SDメモリーカード、または、マルチメディアカード（以下 カード）が必要です。
付属のSDメモリーカードは、そのままこのカメラに入れてお使いいただけます。

ライトプロテクト（書き込み禁止）スイッチ

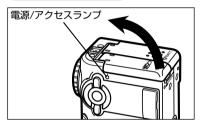
- SDメモリーカードにはライトプロテクト（書き込み禁止）スイッチがついています。このスイッチを下にスライドさせると、カードへのデータ書き込みが禁止され、カード内の画像等を保護することができます。書き込みする際には、スイッチを上側に上げてください。

カードを入れるときは、電源/アクセスランプが「赤色で点滅していない」ことを確認してから入れてください。

1. 電源/アクセスランプが「赤色で点滅していない」ことを確認して、カードスロットふたを開きます。

2. カードのラベルをカメラ前面（レンズ）側、接点を背面（液晶モニター）側に向け、ラベル上の▲マークを挿入口に向けて、「カチッ」と音がするまで押し込みます。

- カード中央をまっすぐに押し込みます。端を押し込まないでください。
- カードが奥まで入らない場合は、無理に押し込まずに、カードの向きを確かめて正しく入れ直してください。
- 奥まで入ると、カードは固定されます。

3. カードスロットふたを元通り閉じます。

- 閉まらない場合は、右ページの要領でカードを一度押し込んでから取り出し、向きを確かめて正しく入れ直してください。
- カードを入れないまま撮影しようとすると、「カードが入っていません」というメッセージが現れます。
- マルチメディアカードを使用した場合、SDメモリーカードと比べて、撮影や再生時の動作応答時間がかなり長くなります。
- マルチメディアカードを入れたとき、上面データパネルに「‒ ‒ ‒」表示が現れたり『**このカードは使えません。**』というメッセージが表示される場合は、カードの上下や裏表を逆に入れていないか確認し、正しく入れ直してください。

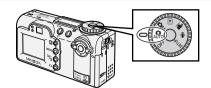
取り出し方

1. 電源/アクセスランプが「赤色で点滅していない」ことを確認して、カードスロットふたを開きます。

電源/アクセスランプが赤色で点滅中はカードを取り出さないでください。カード内のデータが破損する原因となります。

2. カードを「カチッ」と音がするまでカードスロット奥の方へ少し押し込みます。

- 固定が解除され、カードが少し飛び出してきます。

3. カードを取り出し、カードスロットふたを元通り閉じます。

撮影残り画像数の見方

SDメモリーカードを入れて、メインスイッチ/モード切り替えダイヤルを または に合わせると、上面データパネルと液晶モニター右下に撮影残り画像数（現在の設定で撮影を続けると、あと何枚撮影できるか）が表示されます。

1枚のSDメモリーカードに記録できる画像数は、カードの容量やデジタルカメラで設定された画像サイズ、画質によって異なります。カード容量16MBのSDメモリーカードで初期設定で撮影する場合、記録できる画像数は約14枚になります（画像サイズFULL、画質スタンダード）。

- 異なる容量のSDメモリーカードを使用した場合や画像サイズ・画質を変更した場合、また動画撮影を行った場合は、撮影残り画像数は大きく変わります。

- 000 が表示されたときは、SDメモリーカードがいっぱいです。他のSDカードに交換するか、SDカード内の画像を消去してください。画像サイズを小さくしたり（→ P. 54）、画質をより圧縮率の大きいものに変更する（→ P. 55）と撮影できる場合もあります。
- ファイルサイズは被写体によって異なるため、撮影シーンによっては表示されている残り画像数が多少上下することがあります。
- 残り画像数が999枚を超える場合は、999と表示されます。999枚以下になるとカウントが始まります。

カメラの構え方/シャッターボタンの「半押し」

ファインダーを見て撮影する

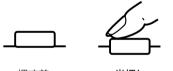
ファインダーを覗いて撮影すると、カメラをしっかり構えることができ、手ぶれが起こりにくくなります。

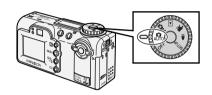
- 脇を閉め、両手でしっかりと構えます。
- 縦位置で撮影するときは、フラッシュを上にして構えてください。
- レンズやファインダー対物窓などカメラの前面に、特にフラッシュに、指や髪の毛、ストラップ等がかからないようにしてください。
- 暗い場所でフラッシュを使わずに撮影する場合や、望遠側で撮影する場合は、手ぶれが起こりやすくなります。三脚などにカメラを固定して撮影することをおすすめします。
- 広角側で1.0mより近いもの、望遠側で3.0mより近いものを撮影するときは、ファインダーで見える範囲と実際に写る範囲とに差がありますので、液晶モニターで構図を決めてください。

液晶モニターを見て撮影する

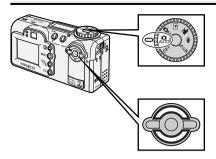
基本的な構え方は、ファインダーを見て撮影する場合と同じです。ファインダーを見て撮影する場合と比べて手ぶれが起こりやすいので、ぶれないようにカメラをしっかり構えて撮影してください。

シャッターボタンの「半押し」

シャッターボタンを軽く押すと、途中で少し止まるところがあります。この使用説明書ではここまで押すことを「半押し」と呼んでいます。

押す前　半押し　押し込んだ状態

簡単に撮影できます AUTO撮影編

この章では、メインスイッチ/モード切り替えダイヤルが AUTO 位置にあるときの各種設定について説明しています。

メインスイッチ/モード切り替えダイヤルを AUTO 位置にしていると、液晶モニター画面左上に AUTO が現れます。

基本的な撮影

1. メインスイッチ/モード切り替えダイヤルを AUTO に合わせます。

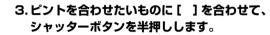
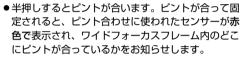
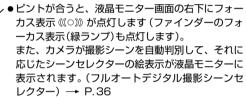
- 電源/アクセスランプが緑色で点灯します。

2. 液晶モニター、または、ファインダーを見ながら、上下の十字キーで写したいものの大きさを決めます。

- 上の十字キーを押すと望遠になり、より大きく写ります。下の十字キーを押すと広角になり、より広い範囲のものが写ります。

3. ピントを合わせたいものに[ ]を合わせて、シャッターボタンを半押しします。

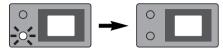
- 半押しするとピントが合います。ピントが合って固定されると、ピント合わせに使われたセンサーが赤色で表示され、ワイドフォーカスフレーム内のどこにピントが合っているかをお知らせします。

- ピントが合うと、液晶モニター画面の右下にフォーカス表示 ((○)) が点灯します（ファインダーのフォーカス表示（緑ランプ）も点灯します）。
  また、カメラが撮影シーンを自動判別して、それに応じたシーンセレクターの絵表示が液晶モニターに表示されます。（フルオートデジタル撮影シーンセレクター） → P. 36

- ピントが合った後に被写体が動いた場合は、ワイドフォーカスフレーム内でピントを合わせが続けられ、被写体の動きに合わせてピント位置をお知らせする赤色のセンサーも移動します。（自動追尾AF） → P. 30

（次ページに続く ）

●シャッターボタンを半押ししたときファインダーのフラッシュ表示（オレンジランプ）がすばやく点滅する場合は、フラッシュが充電中です。シャッターボタン半押しでオレンジランプが消えるまで待ってから撮影してください。

4. シャッターボタンを押し込んで撮影します。

●撮影された画像が自動的にSDメモリーカードに記録（保存）されます。SDメモリーカードへの書き込み中は電源/アクセスランプが赤色で点滅しますので、その間はカードや電池を抜かないでください。

電源/アクセスランプ
（データ書き込み中は赤色で点滅）

●デジタルカメラから約50㎝以上離れたものにピントが合います。それより近くを撮影するときは、デジタル撮影シーンセレクターの「マクロ」をお使いください。→ P. 37、38

●撮影後は、メインスイッチ/モード切り替えダイヤルをOFFに合わせてカメラの電源を切ってください。

AUTO撮影時のピント合わせ

このカメラは「エリアAF」を搭載しています。AUTO撮影時のピント合わせは、撮りたいものが画面中央になくても、ワイドフォーカスフレーム内にあれば的確にとらえることができ、シャッターボタン半押し後に被写体が動いた場合ワイドフォーカスフレーム内でそれを追い続ける「自動追尾AF」を採用しています。

●このカメラは、AFの距離情報などからピントを合わせるべき被写体を判別する機能（**主被写体自動判別機能**）を搭載しており、たとえば撮りたい人物が画面中央にいない場合でも、ワイドフォーカスフレーム内にあれば、的確にとらえることができます。

●シャッターボタンを半押しすると、ピントを合わせるべき被写体が決定されます（被写体ロック）。その被写体が止まっていればその位置でピントが固定されます。その被写体が動いているときは、ワイドフォーカスフレーム内でそれを追い続けます（**自動追尾AF**、→ P. 30）。

●液晶モニターボタンを押して「液晶モニター 消灯」にすると（→ P. 44）、自動追尾AFは自動的にキャンセルされます。液晶モニターボタンを押して液晶モニターを再び点灯させると、自動追尾AFも再び動作し始めます。

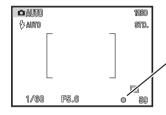
このカメラは、ワイドフォーカスフレーム内にピント合わせのためのセンサーを5つ持っており、ワイドフォーカスフレーム内の広い範囲でピント合わせができます。
また、AFの距離情報などからピントを合わせるべき被写体を判別する機能（**主被写体自動判別機能**）を搭載しており、たとえば、上の例のように撮りたい人物が画面中央にいない場合でも、ワイドフォーカスフレーム内にあれば、的確にとらえることができます。

（次ページに続く ☞）

AUTO撮影時のピント合わせ

半押しでピントを合わせた後、被写体が動いた場合（自動追尾AF）

シャッターボタンの半押しでピントを合わせるべき被写体を決定した後でその被写体が動いた場合、シャッターボタンを半押しのままにしておくと、ワイドフォーカスフレーム内でその被写体にピントが追従します（自動追尾AF）。
撮りたい被写体が左右に動いてもピントが合った状態でその被写体を追い続けるので、いったんシャッターボタンの半押しでピントを追う被写体を決定しておけば、被写体が最適の状態（たとえば、子供が振り向いた瞬間や、ペットがもっとも愛らしい表情をしたときなど）を狙って撮影できます。

● 自動追尾AFのときは、ピントが合っているところをお知らせする赤いセンサー（ピント位置表示）が被写体の動きに合わせて移動します（下図は画面左から右へと被写体が動いたとき）。

● 被写体の動きが高速だった場合や、被写体がワイドフォーカスフレームの外に移動したときは、ローカルフォーカスフレームからワイドフォーカスフレームにもどって、追尾できないことをお知らせします。またこのとき、液晶モニター画面右下のフォーカス表示 ((○)) が ●（赤色で点灯）に変わります。

● 以下の場合は、自動追尾AFは動作しません。これらの場合はワンショットAF（シャッターボタン半押しで一度だけピントを合わせ、そこで固定 → P.81）に切り替わります。
- 液晶モニターを消灯しているとき（→ P.44）
- 暗いところ
- デジタルズーム域で撮影しているとき（→ P.60）
- セルフタイマー撮影/リモコン撮影のとき（→ P.47〜49）

フォーカス表示

シャッターボタンを半押しすると、ピントを合わせるべき被写体が決定され、それにピントが合うと、ワイドフォーカスフレームの中でピント合わせに使われたセンサーが赤色で表示されます。
同時に、液晶モニター画面右下のフォーカス表示とファインダー横のフォーカス表示（緑ランプ）がピントの状態をお知らせします。

((○)) 点灯 緑ランプ **点灯**	自動追尾AFで、 ピントが合っています。 ピントを追尾中です。
●（赤色）点灯 緑ランプ **すばやく点滅**	ピントが合っていません。
((○)) 点灯 ↓ ●（赤色）点灯	自動追尾AFで、 ピントを追尾できません。
○（白色）点灯 緑ランプ **点灯**	ワンショットAFで、 ピントが合って固定されています。

※液晶モニター画面右下に ●（赤色）が点灯するとき・ファインダー横の緑ランプが**すばやく点滅する**ときは、被写体がデジタルカメラから50㎝以上離れているか、または、オートフォーカスの苦手な被写体（→ 次ページ）を撮影しようとしていないか確認してください。そのまま撮影すると、ほぼ2.0mにピントが合います。

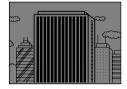
※ファインダー横の緑ランプが約0.5秒間隔で**ゆっくり点滅する**ときは、シャッター速度が遅くなり手ぶれを起こしやすくなっています。三脚などにカメラを固定して撮影されることをおすすめします（→ 63ページ）。

（次ページに続く ☞）

AUTO撮影時のピント合わせ

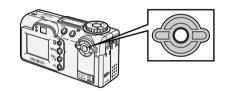
オートフォーカスの苦手な被写体

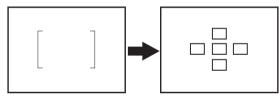
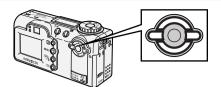
オートフォーカスのピント合わせは被写体のコントラスト（明暗差）を利用しています。したがって次のような被写体ではオートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。このような場合は、撮りたいものと同距離にある別の被写体にピントを固定して撮影するフォーカスロック撮影（下記）、または、手動によるピント合わせ（→ P. 84）をおすすめします。

暗すぎるもの

青空や白壁など
コントラストのないもの

［　］の中に
距離の異なるものが
混じっているとき

太陽のように明るいもの、
車のボディ、水面など
きらきら輝いているもの

フォーカスロック撮影（自動追尾AF機能の解除）

1. 十字キー中央のボタンを 約1秒間 押し続けます。

- ワイドフォーカスフレームから5つのローカルフォーカスフレームに切り替わります（下図）。

- 5つのローカルフォーカスフレームに切り替わった時点で自動追尾AF機能は解除され、ワンショットAF（シャッターボタン半押しで一度だけピントを合わせ、そこで固定 → P. 81）になります。

2. 上下左右の十字キーで、ピントを合わせたいローカルフォーカスフレームを選びます。

- 選ばれたローカルフォーカスフレームは枠線が青色で表示されます。

3. ピントを合わせたいものにローカルフォーカスフレームを合わせ、シャッターボタンを半押しします。

- 画面右下に白い○が点灯し、ファインダー横のフォーカス表示（緑ランプ）が点灯します。

4. シャッターボタンを半押ししたまま、撮りたい構図にもどします。

5. シャッターボタンを押し込んで撮影します。

- ローカルフォーカスフレーム表示のときに、十字キー中央のボタンを 約1秒間押し続けると、ワイドフォーカスフレームにもどります。AF（オートフォーカス）もワンショットAFから自動追尾AFにもどります。

AUTO撮影時のフラッシュ表示

フラッシュ表示

AUTO撮影にするとフラッシュは自動発光モードになり、暗いときや逆光のときはフラッシュが自動的に発光します。
ファインダー横のフラッシュ表示オレンジランプがフラッシュの充電状態をお知らせします。

- シャッターボタンを半押ししたときファインダーのフラッシュ表示（オレンジランプ）がすばやく点滅する場合は、フラッシュが充電中です。オレンジランプが消えるまで待ってから撮影してください（フラッシュの充電時間は新品電池で約5秒です）。
- このカメラではフラッシュの発光量を正確に決めるため、フラッシュ発光時には撮影の直前に一度フラッシュが発光します（プリ発光）。よって本発光と合わせてフラッシュが2回続けて発光します。
- 自動発光モード以外のフラッシュモードを選ぶこともできます。→ P. 62
- シャッターボタンを半押ししたときファインダー横のフォーカス表示（緑ランプ）がゆっくり点滅する場合は、シャッター速度が遅くなり手ぶれを起こしやすくなっています。三脚などにカメラを固定して撮影されることをおすすめします。→ P. 63

フラッシュ光の届く距離

フラッシュの光が届く範囲には限度があります。
AUTO撮影では、もっとも広角側では2.9m、もっとも望遠側では1.7mを目安に撮影してください。

広角側：2.9m
望遠側：1.7m

夜景など暗い場合は、フラッシュが発光しても遠くの景色は写りません。

デジタル撮影シーンセレクター

撮影したい場面（シーン）を絵表示で選ぶだけで、カメラがその場面の撮影にふさわしい状態に設定されますので、場面（シーン）に合った写真を簡単に撮ることができます。
また、AUTO撮影では、被写体までの距離や撮影倍率などさまざまな情報から撮影シーンをカメラが自動判別し、その場面の撮影にふさわしい状態に自動的に設定されます（**フルオートデジタル撮影シーンセレクター**）。
以下の7つの場面（シーン）が用意されています。

シーン	絵表示	効果
マクロ		デジタルカメラ内のCCDの位置から約20cm〜60cm（レンズ先端から約14.5cm〜54.5cm）の間のものを撮ることができます。
ポートレート		人物を美しく引き立たせ、人の肌をなめらかに再現します。
スポーツ		速く動いているものでもぶれないように、またやや遠いところにある被写体をくっきりと描写します。
風景		色は鮮やかに、輪郭はくっきりと描写します。全体的にピントが合って見えるように再現します。
夕景		夕方の雰囲気（夕焼けの赤い色）を残し、美しく描写します。夕景を背景とした人物撮影では、両者をバランスよく再現します。
夜景ポートレート・夜景（フルオートデジタル撮影シーンセレクター時は、「夜景」とカメラに判断された場合のみ絵表示が現れます。）		黒をしっかりと再現し、明かりのない部分は黒く、明るい部分は明るく写し出して、美しい夜景を描写します。夜景を背景とした人物撮影では、両者をバランスよく再現します。
（上記以外）	（なし）	上記6つのどれにも当てはまらない、一般的な撮影を行います。

（次ページに続く ☞）

デジタル撮影シーンセレクター

フルオートデジタル撮影シーンセレクター

AUTO撮影では、レンズの焦点距離や被写体までの距離、撮影倍率などさまざまな情報から撮影シーンをカメラが自動判別し、その場面の撮影にふさわしい状態に自動的に設定されます。

シャッターボタンを半押しすると、選ばれたシーンの絵表示が液晶モニターに表示されます（左図）。

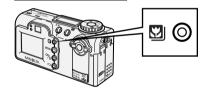
- ポートレート、スポーツ、風景、夕景、夜景、（絵表示なし）の中からいずれか一つが自動的に選ばれます。フルオートデジタル撮影シーンセレクターでは マクロ は選ばれません。
- 絵表示が何も表示されない（絵表示なしの）ときは、シーンセレクタのどれにも当てはまらない一般的な撮影を行います。
- フラッシュが自動発光モードのときは、選ばれるシーンによっては、フラッシュが発光禁止モードに設定されます。その場合、被写体が暗いときや逆光ですと、シャッター速度が遅くなり手ぶれを起こしやすくなりますのでご注意ください（液晶モニター画面に手ぶれ警告 が表示されます）。
- カメラが選んだシーン以外で撮影したいときは、次ページ「通常のデジタル撮影シーンセレクター」の手順で、撮影前に選択ボタンを押して希望のシーンを選んでください。

フルオートデジタル撮影シーンセレクターの各シーンが選ばれる目安は以下の通りです。

ポートレート	明るくて､人物をポートレート撮影にふさわしい倍率で撮影していると判断されたとき。
スポーツ	運動会や競技スポーツの撮影など、どちらかといえば離れたところで動いている被写体を撮影しているシーン。動いている被写体を、小さい撮影倍率で、望遠で撮影しているとき。 *※動いているものを近くで撮影しているときやズーム広角側で撮影しているときは、スポーツは選ばれません。*
風景	明るい状態で、撮影倍率が小さいとき。
夕景	色情報から夕焼けと判断され、撮影倍率が小さいとき。
夜景	暗くて、撮影倍率が小さいとき。 *※フルオートデジタル撮影シーンセレクターの場合、夜景を背景に人物撮影するシーン（夜景ポートレート）は、被写体の倍率によっては一般的な撮影シーンと判断されてしまうので、フラッシュ撮影をしても人物・夜景の両方をきれいに描写することができません。夜景ポートレートを撮影するときは、フルオートではなく、撮影前に撮影シーン選択ボタンを押して「夜景ポートレート・夜景」を選び、フラッシュモードボタンでフラッシュを「強制発光」モードにして撮影してください（→ P.40）。*

AUTO撮影

通常のデジタル撮影シーンセレクター

選び方

撮影前に、撮影シーン選択ボタンを押して、撮影したい画面の絵表示を液晶モニターに表示させます。

- 押すごとに、マクロ → ポートレート → スポーツ → 風景 → 夕景 → 夜景ポートレート・夜景 → 一般的な撮影（絵表示なし）→ フルオートデジタル撮影シーンセレクター（すべての絵表示を灰色で表示）→ マクロ → ……（以下同じ順序）の順で絵表示が液晶モニター上部に現れます。

（次ページに続く ☞）

デジタル撮影シーンセレクター

マクロ

- マクロを選択すると、レンズが焦点距離23.4㎜の位置に自動的にズームします。
- 20㎝（レンズ先端から約14㎝）未満のものにはピントが合いません。
- マニュアル撮影（→ P. 66 ～）のときは、マクロのみ 設定できます。他の ポートレート、スポーツ、風景、夕景、夜景ポートレート・夜景 は設定できません。

- フラッシュが自動発光モード、または、赤目軽減自動発光モードのとき マクロ を選択すると、フラッシュは発光禁止モードに変わります。他のフラッシュモードに変更はできます（→ P. 62）が、強制発光で撮影すると、正しく露出制御されません。またフラッシュ光がレンズでさえぎられることがあります。
- マクロ では、ファインダーで見える範囲と実際に写る範囲とに差がありますので、液晶モニター画面で構図を決めてください。液晶モニターボタンで液晶モニターを消灯させていても（→ P. 44）、マクロ を選択すると液晶モニターは点灯します。

ポートレート

- レンズの望遠側で撮影するとより効果的です。

スポーツ

- フラッシュ光が届かない場合は、フラッシュを使用しないでください。
  ※フラッシュモードの変更 → P. 62
  ※フラッシュ光の届く距離 → P. 34

風景

- フラッシュが自動発光モードのとき 風景 を選択すると、フラッシュは発光禁止モードに変わります。被写体が暗いときや逆光の場合、シャッター速度が遅くなり手ぶれを起こしやすいのでご注意ください（液晶モニター画面に手ぶれ警告 が表示されます）。

AUTO撮影

（次ページに続く ☞）

デジタル撮影シーンセレクター

夕景

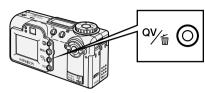
- フラッシュが自動発光モードのとき 夕景 を選択すると、フラッシュは発光禁止モードに変わります。夕景を背景にした人物撮影の場合はフラッシュモードボタンで強制発光モードに切り替えてください（→ P. 62）。
- **シャッター速度が遅くなり手ぶれを起こしやすくなりますので（液晶モニター画面に手ぶれ警告 が表示されます）、三脚などにカメラを固定して撮影してください。また夕景を背景にした人物撮影の場合、撮影される人物が動くと写真もぶれますので、声をかけて動かないように気を付けてもらってください。**
- レンズを長時間太陽に向けたまま放置しないでください。CCD（撮像素子）を痛める原因になります。

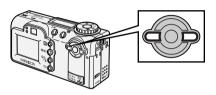
夜景ポートレート・夜景

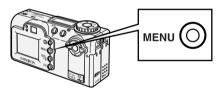
- フラッシュが自動発光モードのとき 夜景ポートレート・夜景 を選択すると、フラッシュは発光禁止モードに変わります。夜景ポートレート（夜景を背景にした人物撮影）の場合はフラッシュモードボタンで強制発光モードに切り替えてください（→ P. 62）。
- **シャッター速度が遅くなり手ぶれを起こしやすくなりますので（液晶モニター画面に手ぶれ警告 が表示されます）、三脚などにカメラを固定して撮影してください。また夜景ポートレート（夜景を背景にした人物撮影）の場合、撮影される人物が動くと写真もぶれますので、声をかけて動かないように気を付けてもらってください。**

撮影した画像を確認する/消去する

撮影した画像を確認する（クイックビュー）

撮影した画像を簡単に見ることができます。

1. 撮影後、クイックビュー/消去ボタンを押します。

- 直前に撮影された画像が液晶モニターに表示されます。
- 液晶モニターボタンで液晶モニターを消灯させていても（→ P. 44）、クイックビュー/消去ボタンを押すと液晶モニターは点灯し、画像が表示されます。

2. 左右の十字キーで見たい画像を選びます。

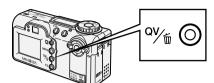
- 液晶モニターボタンを押すと、撮影日時や画像サイズ、画質、画像番号/全体の画像数などのデータが消え、画像のみ表示されます。もう一度液晶モニターボタンを押すと、データが再び表示されます。
- 撮影データ表示ボタンを押すと、画像のヒストグラム（輝度分布）と撮影時のデータが表示されます（→ P. 117）。もう一度撮影データ表示ボタンを押すと、撮影された画像の表示にもどります。

3. メニューボタン、または、シャッターボタンを押すと、もとの撮影モードにもどります。

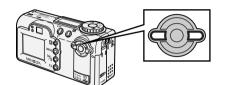
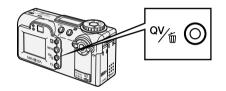
- 上の操作**1.**の前に液晶モニターを消灯させていたときは、もとの撮影モードにもどると同時に液晶モニターは再び消灯します。

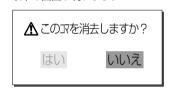
（次ページに続く ☞）

撮影した画像を確認する/消去する

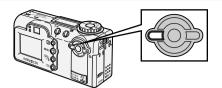
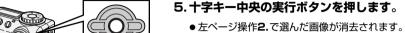
画像を手早く消去する

クイックビューの状態で、画像を簡単に消去することができます。

1. 撮影後、クイックビュー/消去ボタンを押します。

- 直前に撮影された画像が液晶モニターに表示されます。
- 液晶モニターボタンで液晶モニターを消灯させていても（→ P. 44）、クイックビュー/消去ボタンを押すと液晶モニターは点灯し、画像が表示されます。

2. 左右の十字キーで消去したい画像を選びます。

3. もう一度クイックビュー/消去ボタンを押します。

- 以下の画面が現れます。

- 消去したくない場合は、上記の状態で十字キー中央の実行ボタンを押してください。

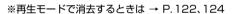
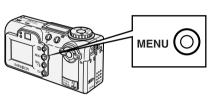
4. 左の十字キーで「はい」を選びます。

5. 十字キー中央の実行ボタンを押します。

- 左ページ操作**2.**で選んだ画像が消去されます。
- 他の画像も消去するときは、**2.**～**5.**の操作を繰り返します。

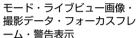
6. メニューボタン、または、シャッターボタンを押すと、もとの撮影モードにもどります。

- 左ページ操作**1.**の前に液晶モニターを消灯させていたときは、もとの撮影モードにもどると同時に液晶モニターは再び消灯します。

※再生モードで消去するときは → P. 122、124

液晶モニター表示の切り替え

液晶モニターボタンを押します。

●ボタンを押すごとに、液晶モニターの表示が以下の順序で切り替わります。

モード・ライブビュー画像・撮影データ・フォーカスフレーム・警告表示

モード・ライブビュー画像

液晶モニター消灯

●警告表示とは、液晶モニターに赤色で表される表示のことです。

●モード・ライブビュー画像のみが表示されている状態（上図 真ん中の状態）でも、自動追尾AFやフルオートデジタル撮影シーンセレクターは動作します（ただし、フォーカスフレームやフォーカス表示、デジタル撮影シーンセレクターの絵表示などは表示されません）。

●この使用説明書では、すべてを表示させた状態（上図 左端）で説明しています。

AUTO撮影でのメニュー設定

メニューボタンを押すと、左図のメニュー画面が現れ、以下の表の項目の設定（変更）ができます。基本の操作は以下の通り。

①メニューボタンを押してメニュー画面を表示させます。

②上下の十字キーで項目を選び、右の十字キーを押します。

③上下の十字キーで設定したい内容を選びます。

④十字キー中央の実行ボタンを押します。

（☞ 46ページ）

（☞ 54ページ）

（☞ 55ページ）

（☞ 58ページ）

（☞ 60ページ）

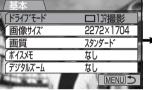
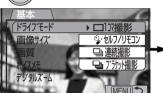
●これら5つのメニュー項目は、マニュアル撮影モードでのメニューにも共通に配置されています。

●反転（強調）表示は、セットアップモードの「設定値リセット」（→ P. 163）で設定される内容です。

ドライブモード

1コマ撮影、セルフタイマー/リモコン撮影、連続撮影、ブラケット（露出ずらし）撮影の4通りのドライブモードから希望の設定を選びます。

1. メニューボタンを押します。

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

メニューボタン押し、または、シャッターボタン半押しで元の画面へ
※「ブラケット撮影」を選択した場合は、51ページへ

1コマ撮影

シャッターボタンを押すごとに、1枚ずつ撮影されます。初期設定は1コマ撮影で、セットアップモードの「設定値リセット」（→ P. 163）操作でも1コマ撮影にもどります。

セルフタイマー/リモコン撮影

カメラのシャッターボタンを押すとセルフタイマー撮影に、リモコンの撮影ボタンを押すとリモコン撮影になります。

セルフタイマー撮影 ～ シャッターボタンを押してから約10秒後に撮影されます。撮影者も一緒に写真に入るときに便利です。

リモコン撮影 ～ IRリモコンRC-3 を使って、デジタルカメラから離れてシャッターを切ることができます。撮影者も一緒に写りたいときやカメラぶれを防ぐのにお使いください。

1. 前ページの手順で、「セルフ/リモコン」を選びます。

- 上面データパネル、液晶モニター画面右下にが表示されます。

（次ページに続く ☞）

メニュー設定 — ドライブモード

【セルフタイマー撮影の場合】

2. 被写体にピントが合っていることを確認してから、シャッターボタンを押します。

セルフタイマー/リモコン作動表示ランプ

- セルフタイマーの作動中は、カメラ前面のセルフタイマー/リモコン作動表示ランプが点滅します。撮影直前には素早い点滅、そして点灯となり、撮影のタイミングをお知らせします。
- セルフタイマー動作中は、ランプと同様に音でもお知らせします。音を消すこともできます。→ P. 160
- 撮影後、セルフタイマーは解除され、1コマ撮影にもどります。
- 作動中のセルフタイマーを止めるには、メインスイッチ/モード切り替えダイヤルを回してください。

【リモコン撮影の場合（IRリモコン RC-3（下図）を使用します。）**】**

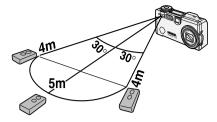
信号送信部

2秒後撮影ボタン

撮影ボタン

2秒後撮影ボタン ― 押してから約2秒後にシャッターが切れます。撮影者は2秒の間にリモコンを拳の中や背中などに隠して写真に写ることができます。

撮影ボタン ― 押すとすぐにシャッターが切れます。シャッターボタンを押す振動によってカメラがぶれることを防いだり、シャッターを押すタイミングが重要なシーンでお使いください。

2. 撮りたいものに [　　] を合わせ、構図を決めます。

3. 左図の範囲内で、リモコンの信号送信部をカメラ（のリモコン受信部）に向け、2秒後撮影ボタンか撮影ボタンを押します。

リモコン受信部

- カメラを三脚などに取り付けてから操作してください。
- 2秒後撮影ボタンを押したときは、カメラ前面のセルフタイマー/リモコン作動表示ランプが数回点滅します。撮影ボタンを押したときは、カメラ前面のセルフタイマー/リモコン作動表示ランプが1回点滅します。
- 撮影後もセルフタイマー/リモコン撮影の設定のままです。解除するには、ドライブモードをセルフタイマー/リモコン撮影以外に設定してください。

※逆光時や蛍光灯の近く、極端に明るい場所では、リモコン撮影の可能な範囲が極端に短くなったり、リモコン撮影ができないことがあります。

※このカメラでは、リモコン撮影時のフォーカスロック撮影はできません。

連続撮影

シャッターボタンを押し込んでいる間、連続して撮影されます。シャッター音なしで最速約1.5コマ/秒、シャッター音ありで最速 約1.2コマ/秒 の連続撮影ができます。

- 連続撮影の速度は、被写体など撮影条件によって異なります。

1. 46ページの手順で、「連続撮影」を選びます。

- 上面データパネル、および、液晶モニター画面右下に が表示されます。

2. シャッターボタンを押し続けて撮影します。

- スーパーファイン（TIFF）画質（→ P. 56）を選んでいるときは、連続撮影はできません。また、ドライブモードに連続撮影を選んでいるときは、スーパーファイン（TIFF）画質を選べません。
- フラッシュが発光するときは、フラッシュの充電が完了してから撮影されます。また、フラッシュ撮影のときは（撮影のたびに）撮影の直前にフラッシュが一度発光して（プリ発光）、その結果で発光量が制御されます。
- 露出とピントの位置は1コマ目で固定されます。
- 連続撮影の速度を維持できる枚数には上限があります（以下の表参照）。これらの値は画像サイズや画質、被写体によって異なるため、あくまで目安とお考えください。

	画像サイズ			
	2272×1704	1600×1200	1280×960	640×480
ファイン	4	8	13	49
スタンダード	8	16	26	91
エコノミー	16	32	49	156

- 撮影中にカードの空きがなくなると、撮影残り画像数 000 が表示されます。

ブラケット（露出ずらし）撮影

露出を自動的にずらした写真が3枚撮影できます。シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影されます。

- スーパーファイン（TIFF）画質（→ P. 56）を選んでいるときは、ブラケット撮影はできません。また、ドライブモードにブラケット撮影を選んでいるときは、スーパーファイン（TIFF）画質を選べません。

1. 46ページの手順で、「ブラケット撮影」を選び、十字キー中央の実行ボタンを押します。

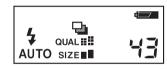
- 露出ずらし量を設定する画面（下図）が現れます。

2. 左右の十字キーでずらし量を選びます。

- ±1.0、±0.5、±0.3のいずれかを選びます。選んだ数値は、液晶モニター画面右下に表示されます（左図）。

3. 十字キー中央の実行ボタンを押して、元の画面にもどります。

- 上面データパネルに が表示されます。
- 液晶モニター画面右下には、 と、その横に撮影枚数を表す③が表示されます。

（次ページに続く ☞）

4. シャッターボタンを押し続けて撮影します。

- ±0 → −（露出アンダー側）→ ＋（露出オーバー側）の順に撮影されます。
- 液晶モニター画面には、 の横にブラケットの残り枚数が表示されます。

- 露出の基準値（±0）とピントの位置は、1枚目を撮影するときに固定されます。
- 3枚撮り終える前にシャッターボタンから指を離すと、ブラケット撮影は終了します。
- 撮影中にカードの空きがなくなると、その後の撮影は行われず、ブラケット撮影は途中で終了します。

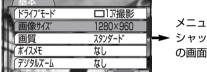
- 電池の容量が少ないとき（液晶モニターに （**白色**）が表示されるとき）は、1枚のみ撮影されます。

ここは空白ページです。

メニュー設定 — 画像サイズ・画質

画像サイズ

画像の大きさを指定できます。サイズを大きくすればするほど、1枚のSDメモリーカードに記録できる枚数は減ります。

1. メニューボタンを押します。

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

メニューボタン押し、または、シャッターボタン半押しで元の画面へ

画質

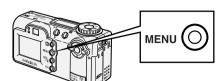
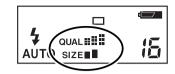
エコノミー（低画質）からスーパーファイン（超高画質）までの4種類から選ぶことができます。高画質になるほど、1枚のSDメモリーカードに記録できる枚数は減ります。

1. メニューボタンを押します。

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

メニューボタン押し、または、シャッターボタン半押しで元の画面へ

（次ページに続く ☞）

メニュー設定 ― 画像サイズ・画質

設定した画像サイズと画質は、上面データパネルと液晶モニター画面右上に表示されます。

上面ﾃﾞｰﾀﾊﾟﾈﾙ	液晶ﾓﾆﾀｰ	画像サイズ（記録解像度、単位：ピクセル）
SIZE ▮▮▮▮	2272	2272×1704（FULL）
SIZE ▮▮▮	1600	1600×1200（UXGA）
SIZE ▮▮	1280	1280×960（SXGA）
SIZE ▮	640	640×480（VGA）

上面ﾃﾞｰﾀﾊﾟﾈﾙ	液晶ﾓﾆﾀｰ	画質
QUAL	S.FIN	スーパーファイン（超高画質、TIFF画像）
QUAL	FINE	ファイン（高画質、JPEG画像）
QUAL	STD.	スタンダード（標準画質、JPEG画像）
QUAL	ECON.	エコノミー（低画質、JPEG画像）

- JPEG（ジェイペグ）は写真データとしてもっとも一般的なファイル形式で、オリジナルの画像を効率良く圧縮して容量を小さくしたものです。ファイン、スタンダード、エコノミーの違いは圧縮率の大小によるもので、ファイン → スタンダード → エコノミーの順で圧縮率が大きくなります。一方、TIFF（ティフ）は圧縮されておらず、画質は最高ですが容量は大きくなります。
- 画質をスーパーファイン（TIFF）にすると、撮影後SDメモリーカードに画像を記録するのに約25秒程度かかることがあります。記録中は「カードに保存中」というメッセージと保存状況を示すバーグラフが表示されます。
- ユーティリティソフトウェア DiMAGE Viewer（ディマージュ ビューアー）で、文書画像処理プラグインの機能を使用するには、フルサイズ（2272×1704）または 1600×1200 で撮影された画像が必要です。

- 画像サイズと画質とによってファイルサイズが決まり、ファイルサイズとSDメモリーカードの容量によって1枚のカードに記録できる撮影画像数が決まります。
  ファイルサイズの目安と付属のSDメモリーカード（容量16MB）の撮影画像数は 以下の通りです。
  （動画の撮影については → P. 107、音声の記録については → P. 110）

画像ファイルサイズ

	2272×1704	1600×1200	1280×960	640×480
スーパーファイン	約12MB	約5.6MB	約3.6MB	約900KB
ファイン	約2MB	約1MB	約600KB	約200KB
スタンダード	約1MB	約500KB	約300KB	約100KB
エコノミー	約500KB	約250KB	約150KB	約50KB
動画	約340KB/秒			
音声	約8KB/秒			

16MB SDメモリーカード使用時の撮影画像数

	2272×1704	1600×1200	1280×960	640×480
スーパーファイン	約1コマ	約2コマ	約3コマ	約15コマ
ファイン	約7コマ	約15コマ	約23コマ	約82コマ
スタンダード	約14コマ	約29コマ	約45コマ	約150コマ
エコノミー	約29コマ	約56コマ	約82コマ	約226コマ
動画	約41秒			
音声	約30分9秒			

- 上記の値は被写体によって異なるため、あくまで目安とお考えください。

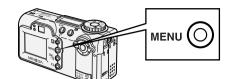
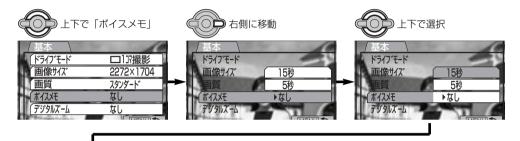
メニュー設定 — ボイスメモ

撮影した画像に5秒間、または15秒間の音声メモを付けることができます。撮影時のメモ代わりなどにお使いいただけます。

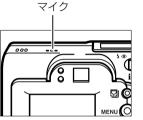
1. メニューボタンを押します。

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

中央で決定

基本
ドライブモード　1コマ撮影
画像サイズ　2272×1704
画質　スタンダード
ボイスメモ　15秒
デジタルズーム　なし

メニューボタン押し、または、シャッターボタン半押しで元の画面へ

ボイスメモの設定で「5秒」または「15秒」を選んだときは、上面データパネルと液晶モニター画面左上に音声記録表示 🎙 が表示されます。

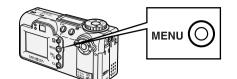
ボイスメモを設定しているときは、**撮影後、自動的に録音が始まります**。デジタルカメラのマイクに向かって、しゃべるなど音声を入力してください。

録音中は右図のような表示が現れ、図中のバーグラフで録音の進行状況をお知らせします。

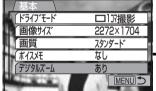
- マイクから20㎝くらい離れたところから、真っすぐマイクに向かってしゃべってください。大きな声でしゃべると、再生時に音が割れることがあります。

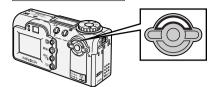
- 録音された音声は、再生モードで、十字キー中央の実行ボタンを押すと再生されます(→ P. 114)。
- 録音された音声は、SDメモリーカード内の、撮影した画像と同じ場所(フォルダ)に、WAVファイル*として保存されます (→ P. 156)。
- 録音を途中で終了したいときは、十字キー中央の実行ボタンを押してください。それまでに録音されていた内容は保存されます。
- アフタービュー設定時(→ P. 104)は、設定された時間(秒数) 液晶モニターに撮った画像が表示された後に、録音が始まります。
- 連続撮影時(→ P. 50)およびブラケット(露出ずらし)撮影時(→ P. 51)には、最後に撮影されたコマに音声メモが付きます。
- 再生モードで音声メモを付けることもできます(アフレコ機能)。→ P. 128

* WAVファイル……Windows®で標準的に用いられるサウンドデータのファイル形式。WAVEファイルとも言います。通常は拡張子として .wav が付きます。

メニュー設定 — デジタルズーム

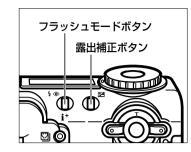
画像を、最大2.5倍に拡大することができます。光学ズーム（の最望遠側）から、操作が途切れることなく連続してデジタルズームに切り替わります。

1. メニューボタンを押します。

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

メニューボタン押し、または、シャッターボタン半押しで元の画面へ

操作方法

十字キーの上で、光学ズームの最望遠側までズームさせ、さらにそのまま押し続けます。

- 液晶モニター画面の画像が、光学ズームの最望遠側から 1.25倍 → 1.5倍 → 1.75倍 → 2.0倍 → 2.25倍 → 2.5倍 の順に拡大されます。
- 十字キー（の上）を押し続けずに、1回1回押し直しても、上記の順に液晶モニター画面の画像が拡大されます。
- デジタルズームのときは、液晶モニター画面上部に、拡大倍率が赤色で表示されます。（例：× 2.5）
- 十字キーの下を押し続ける、または、1回1回押し直すと、上記とは逆の順に液晶モニター画面の画像が縮小され、そのまま光学ズーム（の最望遠側）に移ります。

- ファインダーはデジタルズームには連動していません。写る範囲は液晶モニターの画面で確認してください。
- デジタルズーム時には、ピント位置をお知らせする赤いセンサーは中央のみ表示されます。
- デジタルズーム時には自動追尾AFは動作しません。

※このカメラのデジタルズームでは、どの倍率で撮影しても、光学ズームと同様 画像サイズを維持したままSDメモリーカードに画像が記録されます。記録されるサイズは、54ページで設定した画像サイズになります。

フラッシュモード/露出補正

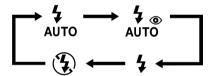
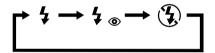
フラッシュモードの切り替え、および、露出補正の設定の両操作が、ボディ上面のボタンで行えます。
この2つは、AUTO撮影/マニュアル撮影（→ P.66）共通の操作です。

フラッシュモードの切り替え

メインスイッチ/モード切り替えダイヤルが AUTO または M 位置のとき、フラッシュモードボタンを押して、フラッシュモードを選びます。

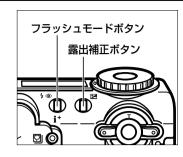
● ボタンを押すごとに、以下の順で上面データパネルの表示が切り替わり、フラッシュモードが変わります。

AUTO撮影のとき、および、マニュアル撮影で露出モードが P（プログラム）モードのとき

マニュアル撮影で露出モードが A（絞り優先）、S（シャッター速度優先）、M（マニュアル）各モードのとき

● カメラが再生モードのときは、フラッシュモードボタンは「撮影データ表示ボタン」になります（→ P.117）。

上面データパネル	液晶モニター	フラッシュモード	
AUTO	AUTO	自動発光	被写体が暗いときや逆光の場合など、必要なときに自動で発光します。
		強制発光	フラッシュはかならず発光します。屋外の人物撮影で顔にある影を和らげたいときや、水銀灯/ナトリウムランプ照明下の被写体を撮影する場合にお使いください。
		発光禁止	フラッシュは発光しません。美術館や博物館などフラッシュ撮影が禁止されている場所でお使いください。
AUTO	AUTO	赤目軽減 自動発光	撮影の直前に小光量のフラッシュが数回発光して、暗いところの人物撮影で目が赤く写る現象を和らげます（赤目軽減）。その他は自動発光、強制発光と同じです。
		赤目軽減 強制発光	

※自動発光/赤目軽減自動発光でフラッシュが発光しない場合や、発光禁止のときは、シャッター速度が遅くなると、液晶モニター画面に手ぶれ警告 が現れ、ファインダー横のフォーカス表示（緑ランプ）がゆっくり点滅（約0.5秒間隔）します。この場合は、ぶれた写真にならないようにご注意ください。三脚などにカメラを固定して撮影されることをおすすめします。

フラッシュモード/露出補正

露出補正

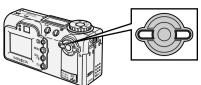
画面全体を明るくしたり暗くしたりします。−2.0〜+2.0の範囲で0.3段ごとに設定できます。
+側にすると画面全体が明るくなります。白い被写体を白く表現するときや、黒い被写体をつぶさずに描写するときなどに使います。
−側にすると画面全体が暗くなります。黒い被写体を黒く表現するときなどに使います。

露出補正+側

露出補正−側

1. メインスイッチ/モード切り替えダイヤルが AUTO または M 位置のとき、露出補正ボタンを押します。

- 上面データパネル および 液晶モニター画面に が現れます。
- 液晶モニターボタンで液晶モニターを消灯させていても、露出補正ボタンを押すと液晶モニターは点灯します(この場合は、露出補正値設定後に液晶モニターは自動的に消灯します)。

- マニュアル撮影(モード切り替えダイヤルが M 位置)で、露出モードとしてM(マニュアル)が選ばれているとき、露出補正ボタンは「シャッター速度⟷絞り値切り替えボタン」として機能します(→P. 75)。

2. 左右の十字キーで希望の数値を選びます。

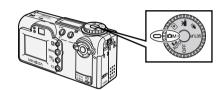
- 右の十字キーを押すと+側に補正がかかり、左の十字キーを押すと−側に補正されます。
- 数値設定中は、液晶モニター画面に とその横に設定値が表示されます(左図)。
- 設定に応じて、液晶モニター画面のライブビューの明るさも変わります。

AUTO撮影

3. 十字キー中央の実行ボタンを押します。

- 補正値が確定され、液晶モニターは通常のライブビュー画面にもどります。
- 0 以外に設定すると、上面データパネルには が、液晶モニター画面には と補正値の両方が表示されます。
- 露出補正値が設定されているとき、フラッシュが自動発光モードのときは、被写体の明るさに応じてフラッシュの発光と非発光とが自動的に切り替わります。

※AUTO撮影の場合、AUTO撮影以外のモードに切り替えたりデジタルカメラの電源を切ると、設定した補正値はキャンセルされ、0 にもどります。マニュアル撮影の場合は、マニュアル撮影以外のモードに切り替えたりデジタルカメラの電源を切っても、設定した補正値は保持されています。

カメラの機能をフル活用して 撮影できます マニュアル撮影編

この章では、メインスイッチ/モード切り替えダイヤルが M 位置にあるときの各種設定について説明しています（動画撮影を除く）。

メインスイッチ/モード切り替えダイヤルを M 位置にしているときには、液晶モニター画面左上にも M が現れます。

マニュアル撮影時のメニュー画面

基本	応用1	応用2
露出モード	P(プログラム)	
ドライブモード	1コマ撮影	
画像サイズ	2272×1704	
画質	スタンダード	
ホワイトバランス	Auto	

マニュアル撮影モード（メインスイッチ/モード切り替えダイヤル M 位置）でメニューボタンを押すと、左図のメニュー画面が現れます。

マニュアル撮影時の大部分の項目は、メニューボタンでこのメニュー画面を呼び出して、十字キーを使って設定します。

反転（強調）表示は、セットアップモードの「設定値リセット」（→ P. 163）で設定される内容です（【応用2】タブ内の 画像エフェクト を除く）。

【基本】タブ

基本	応用1	応用2
露出モード	P(プログラム)	
ドライブモード	A(絞り優先)	
画像サイズ	S(シャッター優先)	
画質	M(マニュアル)	
ホワイトバランス		

（☞ 70ページ）

（☞ 76ページ）

【基本】タブ内の、ドライブモード、画像サイズ、画質 の各項目については、AUTO撮影時のメニュー設定と同じです。以下のページをご覧ください。

ドライブモード	☞	46 〜 52ページ
画像サイズ	☞	54 〜 57ページ
画質	☞	55 〜 57ページ

（次ページに続く ☞）

マニュアル撮影時のメニュー画面

【応用1】タブ

（☞ 80ページ）

（☞ 88ページ）

（☞ 90ページ）

（☞ 92ページ）

（☞ 94ページ）

【応用2】タブ

（☞ 96ページ）

（☞ 102ページ）

（☞ 104ページ）

【応用2】タブ内の、ボイスメモ、デジタルズーム の各項目については、AUTO撮影時のメニュー設定と同じです。以下のページをご覧ください。

ボイスメモ ☞ 58 〜 59ページ
デジタルズーム ☞ 60 〜 61ページ

マニュアル撮影

露出モード

同じシーン、同じ被写体でも、シャッター速度や絞り値を変えると写真の描写が変わります。露出モードを変えることで、シャッター速度と絞り値のどちらか一方 あるいは シャッター速度と絞り値両方を自分で決めることができます。

P（プログラム）モード
　シャッター速度と絞り値の両方が自動的に決まります。

A（絞り優先）モード
　希望の絞り値を選ぶことができます。

S（シャッター速度優先）モード
　希望のシャッター速度を選ぶことができます。

M（マニュアル）モード
　希望のシャッター速度と絞り値の両方を選ぶことができます。

1. ダイヤル 📷M 位置で、メニューボタンを押します。

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

メニューボタン押し、または、シャッターボタン半押しで元の画面へ

P（プログラム）モード

シャッター速度と絞り値とが自動的に決まります。シャッターチャンスに専念することができ、スナップ写真など一般撮影に最適です。初期設定はP（プログラム）モードです。

マニュアル撮影

A（絞り優先）モード

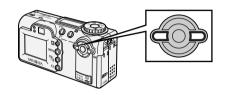
撮影者が希望の絞り値を決めることができます。絞りとはレンズを通して入ってくる光の量を調整するもので、絞り値が変わると被写体の前後のピントの状態が変わり、背景をぼかしたり、くっきり写したりすることができます。

絞り値を 2.8 などに小さくする（絞りを開く）と、被写体の前後がぼけやすくなります（写真左）。逆に 8 などに大きくする（絞りを絞り込む）と、近くのものから遠くのものまでくっきりと写ります（写真右）。

絞り値が小さいとき
（絞りを開いたとき）

絞り値が大きいとき
（絞りを絞り込んだとき）

（次ページに続く ☞）

A（絞り優先）モードを選ぶと、上面データパネルに **A** が表示されます。
また、液晶モニター画面左下に絞り値が青色で表示され、その左に ◆ が現れます。

左右の十字キーで、希望の絞り値を選びます。

- 液晶モニター画面では、絞り値は青色で表示されます。以下の範囲から選ぶことができます。

  ズーム広角側では、F2.8 〜 F8.0 の値
  ズーム望遠側では、F4.7 〜 F8.0 の値

- シャッターボタンを半押ししたときに液晶モニター画面でシャッター速度が赤く点灯した場合は、デジタルカメラの制御範囲を超えているため、露出オーバーまたは露出アンダーの写真になります。シャッター速度が通常に（白く点灯）表示されるように絞り値を変更してください。
- フラッシュを強制発光モードで使用する場合、絞り値を大きくするとフラッシュ光が遠くまで届かなくなります。絞り値を小さくして撮影されることをおすすめします。
- 絞り値を大きくすると、レンズを通る光の量が減少し、シャッター速度が遅くなります（フラッシュが発光しないときは手ぶれ警告 ◆ が表示されます）。三脚を使って撮影されることをおすすめします。
- 被写体の状況によっては、絞り値を変えても、それに連動してシャッター速度が変化しないことがあります。これは、実際に表示されている以上に細かなシャッター速度の変化や撮像感度の調整（Auto設定時のみ）によるもので、実際には適正露出となるように正確にカメラはコントロールされています。

S（シャッター速度優先）モード

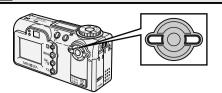
撮影者が希望のシャッター速度を決めることができます。シャッター速度が変わると、動いているものの写り方が変わります。
シャッター速度を 1/1000秒 などに速くすると、動いているものがくっきりと止まって写ります（写真左）。逆に 1/15秒 などに遅くすると、動いているものが流れるように写ります（写真右）。

シャッター速度が速いとき

シャッター速度が遅いとき

S（シャッター速度優先）モードを選ぶと、上面データパネルに **S** が表示されます。
また、液晶モニター画面左下にシャッター速度が青色で表示され、その左に ◆ が現れます。

（次ページに続く ☞）

露出モード

左右の十字キーで、希望のシャッター速度を選びます。

- 液晶モニター画面では、シャッター速度は青色で表示されます。4秒 〜 1/1000秒の範囲から選ぶことができます。

- 液晶モニター画面のシャッター速度で、2”、4” など「”」の文字が出ている場合は、2秒、4秒を表します。
- シャッターボタンを半押ししたときに液晶モニター画面で絞り値が赤く点灯した場合は、デジタルカメラの制御範囲を超えているため、露出オーバーまたは露出アンダーの写真になります。絞り値が通常に（白く点灯）表示されるようにシャッター速度を変更してください。
- S（シャッター速度優先）モードでは、手ぶれ警告 は表示されません。
- バルブ撮影（長時間露光）は、M（マニュアル）モードで行ってください。
- 被写体の状況によっては、シャッター速度を変えても、それに連動して絞り値が変化しないことがあります。これは撮像感度の調整（Auto設定時のみ）によるもので、実際には適正露出となるように正確にカメラはコントロールされています。

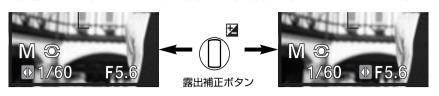
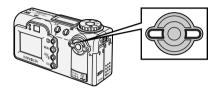
M（マニュアル）モード

撮影者がシャッター速度と絞り値の両方を自由に選ぶことができます。絞り値とシャッター速度の両方を固定したままで撮影したいときや、露出計を使って撮影する際などにお使いいただけます。

M（マニュアル）モードを選ぶと、上面データパネルに **M** が表示されます。また、液晶モニター画面左下にシャッター速度と絞り値が表示されます。両者のうち数値を変えることのできるほうが青色で表示され、その左に が現れます。

1. 露出補正ボタンで、シャッター速度と絞り値のどちらを変更したいかを選びます。

- 露出補正ボタンを押すたびに、数値を変更できる方が青色で表示され、その左に が表示されます。

露出補正ボタン

2. 左右の十字キーで、希望の値を選びます。

【シャッター速度】
4秒 〜 1/1000秒 の範囲から選ぶことができます。

【絞り値】
ズーム広角側では、F2.8 〜 F8.0
ズーム望遠側では、F4.7 〜 F8.0
の範囲から選ぶことができます。

- 液晶モニター画面のシャッター速度で、2”、4” など「”」の文字が出ている場合は、2秒、4秒を表します。
- 適正露出から±1.0EV以上露出オーバー または 露出アンダーとなる場合は、シャッターボタンを半押ししたときに液晶モニター画面でシャッター速度と絞り値が赤く点灯します。
- シャッター速度で、4”（4秒）の次に左の十字キーを押すと、bulb（バルブ撮影）が表示されます。→ P. 106
- M（マニュアル）モードでは、撮像感度（→ P. 94）を Auto にしていると、常に ISO100 相当に固定されます。
- M（マニュアル）モードでは、手ぶれ警告 は表示されません。

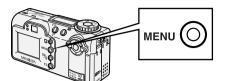
ホワイトバランス

光源によって被写体の色は変化します。特に白いものは、光源によって青っぽくなったり黄色っぽく写ったりします。これを白く写るように調整するのがホワイトバランスです。初期設定であるAuto（オート）にすると自動的に調整されますが、意図的に選択することもできます。

1. ダイヤル M 位置で、メニューボタンを押します。

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

「プリセット」を選んだとき
→ 次ページへ

「カスタム設定」「カスタム呼出」を選んだとき
→ 78ページ［カスタムホワイトバランス］へ

1. 前ページの手順で、「プリセット」を選び、十字キー中央の実行ボタンを押します。

- AUTO以外の、あらかじめ設定が用意されている（プリセットされている）ホワイトバランスを選ぶ画面（下図）が現れます。

2. 左右の十字キーで、被写体を照明している光源を、以下の4つから選びます。

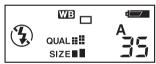
- 昼光（晴れた明るい屋外）
- 曇天（曇った屋外）
- 白熱灯（タングステン光）
- 蛍光灯

- 十字キーの左 または 右を押すたびに、液晶モニター画面左に表示される絵表示が変わります。

3. 十字キー中央の実行ボタンを押して、元の画面にもどります。

- 上の操作**2.**で選んだホワイトバランスの絵表示が、液晶モニター画面左に表示されます。
- 上面データパネルには **WB**表示が現れます。

- Auto（自動設定）にもどすには、前ページの操作で「Auto」を選んでください。Auto（自動設定）は設定のメニュー中には現れますが、撮影中の表示はありません。また、Auto（自動設定）にもどすと、上面データパネルの**WB**表示は消えます。
- 水銀灯やナトリウムランプの場合、その光源の特性上それらだけでは正確なホワイトバランスは得られません。フラッシュの使用をおすすめします。

マニュアル撮影

ホワイトバランス

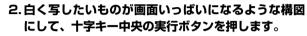
カスタムホワイトバランス

複数の種類の光源で照明されている場合などで、より正確に白さを表現したいは、カスタムホワイトバランスの使用をおすすめします。

カスタムホワイトバランスの設定方法

1. 76ページの手順で、「カスタム設定」を選び、十字キー中央の実行ボタンを押します。

- カスタムホワイトバランスの設定画面（下図）が現れます。

2. 白く写したいものが画面いっぱいになるような構図にして、十字キー中央の実行ボタンを押します。

- ピントを合わせる必要はありません。
- 撮影はされません。ここで画面に入れたものが白く写されるようなホワイトバランスに設定されます。
- 設定後はカスタムホワイトバランスでの撮影になります(カスタムホワイトバランスの絵記号が、液晶モニター画面左に表示されます（左図）。)

- この操作で設定されたカスタムホワイトバランスは、次に同じ操作で別のカスタムホワイトバランスを設定するまで有効です（デジタルカメラの電源を切ってもキャンセルされません）。

カスタムホワイトバランスの呼び出し

いったん他のホワイトバランスに切り替えた後、再びカスタムホワイトバランスにするときは、

76ページの手順で、「カスタム呼出」を選び、十字キー中央の実行ボタンを押します。

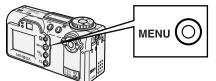
- 左ページの操作で設定したカスタムホワイトバランスが呼び出されてカメラにセットされます（カスタムホワイトバランスの絵記号が、液晶モニター画面左に表示されます（下図）。）

AFモード

シャッターボタン半押しで一度だけピントを合わせてその位置で固定する「ワンショットAF」と、ピントが合った後に被写体が左右に動いてもピントが追従する「追尾AF」を切り替えることができます。撮影者が手動でピントを合わせる「MF(マニュアルフォーカス)」を選ぶこともできます。

1. ダイヤル M 位置で、メニューボタンを押します。

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

メニューボタン押し、または、シャッターボタン半押しで元の画面へ

ワンショットAF

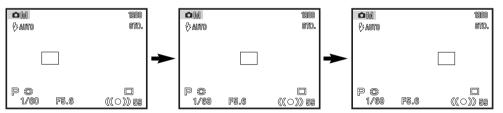
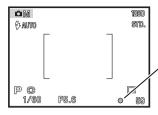
シャッターボタンの半押しで一度だけピント合わせが行われ、ピントが合うとその位置で固定(フォーカスロック)されます。動きの少ない人物や建築物、美術品、静物など静止している被写体の撮影に適しています。

- メニューで【ピント位置表示】を［あり］に設定しているとき(→ P. 90)は、ワイドフォーカスフレームの中でピント合わせに使われたセンサー(ピント位置表示)が赤色で表示されます。
- シャッターボタンから指を離して半押しをやめると、ピント位置の固定(フォーカスロック)は解除されます。

マニュアル撮影

追尾AF

シャッターボタンの半押しでピントを合わせた後でその被写体が動いた場合、シャッターボタンを半押しのままにしておくと、ワイドフォーカスフレーム内でその被写体にピントが追従します。撮りたい被写体が左右に動いてもピントが合った状態でその被写体を追い続けるので、被写体が最適の状態(たとえば、子供が振り向いた瞬間や、ペットがもっとも愛らしい表情をしたときなど)を狙って撮影できます。左右に動き回る被写体の撮影などに効果的です。

- メニューで【ピント位置表示】を［あり］に設定しているとき(→ P. 90)は、ワイドフォーカスフレームの中でピント合わせに使われたセンサー(ピント位置表示)が赤色で表示されます。また、被写体が動いたときは、それに合わせてピント位置を示す赤いセンサー(ピント位置表示)も移動します(下図)。

(次ページに続く ☞)

追尾AF（続き）

- 被写体の動きが高速だった場合や、被写体がワイドフォーカスフレームの外に移動したときは、ローカルフォーカスフレームからワイドフォーカスフレームにもどって、追尾できないことをお知らせします。またこのとき、液晶モニター画面右下のフォーカス表示《○》が●（赤色で点灯）に変わります（左図）。

- 以下の場合は、追尾AFは動作しません。これらの場合はワンショットAF（シャッターボタン半押しで一度だけピントを合わせ、そこで固定→P.81）に切り替わります。
  - ・液晶モニターを消灯しているとき（→P.44）
  - ・暗いところ
  - ・デジタルズーム域で撮影しているとき（→P.60）
  - ・セルフタイマー撮影/リモコン撮影のとき（→P.47〜49）

ここは空白ページです。

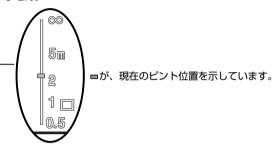
手動によるピント合わせ（MF：マニュアルフォーカス）

オートフォーカスを使わずに、被写体までの距離を手動で設定することができます。

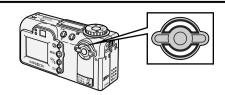
操作方法

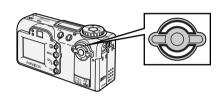
1. 80ページの手順で、「MF」を選び、十字キー中央の実行ボタンを押します。

- マニュアルフォーカスを選んだときは、上面データパネルに**MF**表示が現れます。液晶モニター画面には現在のピント位置の目安となるバーグラフが表示されます（左下図）。
- マニュアルフォーカスを選んだときは、フォーカスフレームは表示されません。

▭が、現在のピント位置を示しています。

2. 液晶モニター画面上部中央で、ZOOMの背後が青色で表示されているときは、十字キー中央の実行ボタンを押して、FOCUSの背後を青色で表示させます。

- マニュアルフォーカスでは、十字キー中央の実行ボタンを押すたびに、以下のように上下十字キーの機能が切り替わります。

上下キーで『ピント合わせ』　上下キーで『ズーミング』

3. 十字キーの上 または 下を 1回 押します。

- 液晶モニター画面中央部が一時的に最大約2.5倍に拡大され、ピントの状態が見やすくなります。
  デジタルズーム使用時は、デジタルズームでの倍率を含めて最大約2.5倍に拡大されます（例：デジタルズームで1.5倍にしているときは、約1.7倍（＝2.5÷1.5）に拡大表示されます）。
- 約2秒間何も操作しないか、シャッターボタンを半押しすると、液晶モニター画面は元の表示にもどります。

4. バーグラフを目安にしながら、撮りたいものが液晶モニターにもっともはっきり見えるように、上下の十字キーでピントを合わせます。

- 液晶モニター画面のバーグラフは目安の表示です。ピントの状態は液晶モニターの画像で確認してください（撮りたいものが液晶モニターにもっともはっきりと見えるようにピントを合わせてください）。

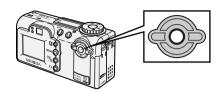
5. シャッターボタンを半押しします。

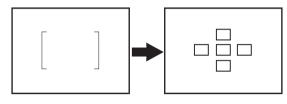
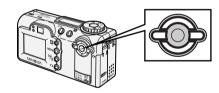
- 液晶モニター画面が元の（拡大前の）表示にもどります。

6. シャッターボタンを押し込んで撮影します。

フォーカスフレームの中からピントを合わせたい所を選ぶ（フォーカスエリアセレクト機能）

マニュアル撮影では、5つのローカルフォーカスフレームの中からピントを合わせたいフレームを選ぶことができます。ワイドフォーカスフレームよりも細かいピント合わせにご利用ください。

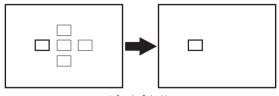
- フォーカスエリアセレクト機能は、[AFモード] に [MF（マニュアルフォーカス）] を選んでいる場合は使用できません。

1. マニュアル撮影モード（メインスイッチ/モード切り替えダイヤル M 位置）で、十字キー中央のボタンを 約1秒間押し続けます。

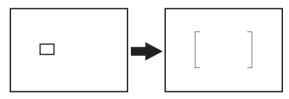
- ワイドフォーカスフレームから5つのローカルフォーカスフレームに切り替わります（下図）。

2. 上下左右の十字キーで、ピントを合わせたいローカルフォーカスフレームを選びます。

- 選ばれたローカルフォーカスフレームは枠線が青色で表示されます。

3. シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。

- ピントが合うと、ローカルフォーカスフレームの枠線が赤色で表示されます。
- ローカルフォーカスフレームに切り替えたときは、[AFモード] の設定に関係なく ワンショットAFになります。

- いったんシャッターボタン半押しでピント合わせを行うと、操作2.で選んだローカルフォーカスフレームのみ表示されます。

ピント合わせ
（シャッターボタン半押し）

- ローカルフォーカスフレーム表示のときに、十字キー中央のボタンを 約1秒間押し続けると、ワイドフォーカスフレームにもどります。

- デジタルズーム（→ P. 60）時には、フォーカスエリアセレクト機能は使用できません。逆に、フォーカスエリアセレクト機能で中央以外の4つのローカルフォーカスエリアのいずれかを選択していたときにデジタルズームにすると、中央のローカルフォーカスエリアのみ表示されます。
- 液晶モニター消灯時は、フォーカスエリアセレクト機能は使用できません。逆に、フォーカスエリアセレクト機能で5つのローカルフォーカスエリアのいずれかを選択していたときに液晶モニターを消灯させた場合は、再度液晶モニターを点灯させると、消灯時に選んでいたローカルフォーカスフレームが表示されます。

フルタイムAF

シャッターボタンを半押しししなくてもフォーカスフレーム内のものに常にピントを合わせ続ける「フルタイムAF」機能を使うか使わないかを選びます。初期設定は フルタイムAF なしです。

1. ダイヤル 📷M 位置で、メニューボタンを押します。

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

メニューボタン押し、または、シャッターボタン半押しで元の画面へ

フルタイムAF あり

フォーカスフレーム内のものに常にピントを合わせ続けます。ピントが合った状態で撮りたい写真の構図の確認がやりやすく、またシャッターボタンの半押しでピント合わせを始めるよりピント合わせを早くすることができます。

- ワイドフォーカスフレーム、ローカルフォーカスフレーム内のものに常に自動的にピント合わせが行われます。
- シャッターボタンを半押しすると、ピントが固定されます。
- ファインダーではフルタイムAFの効果は確認できません。
- 液晶モニターボタンで「液晶モニター消灯」にすると（→ P. 44）、フルタイムAFは自動的にキャンセルされます。液晶モニターボタンを押して液晶モニターを再び点灯させると、フルタイムAFも再び動作し始めます。
- フルタイムAF ありにすると、フルタイムAF なしに比べ電池の寿命がやや短くなることがあります。

フルタイムAF なし

シャッターボタンの半押しでピント合わせを始めます。

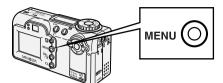
※フルタイムAF あり ←→ なし の切り替えは、マニュアル撮影時にのみ有効です。AUTO撮影時はここでの設定に関係なく常に［**フルタイムAF あり**］です。

ピント位置表示

ピントが合ったとき、ピント合わせに使われたセンサー(ローカルフォーカスフレーム)を赤色で表示させるかさせないかを選びます。初期設定は ピント位置表示 ありです。

1. ダイヤル M 位置で、メニューボタンを押します。

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

メニューボタン押し、または、シャッターボタン半押しで元の画面へ

ピント位置表示 あり

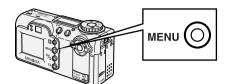
オートフォーカスでピントが合うと、ワイドフォーカスフレーム中でピント合わせに使われたセンサー(ローカルフォーカスフレーム)が赤色で表示されます。どの被写体に(あるいは、被写体のどの部分に)ピントが合っているのか、撮影前に確認することができます。

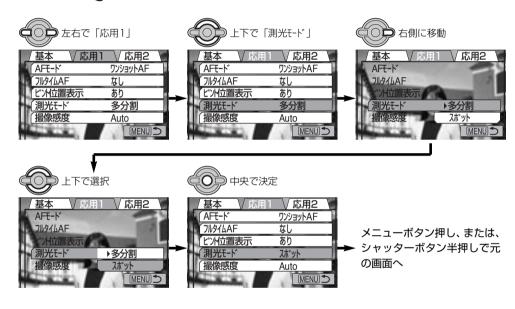
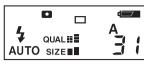
ピント位置表示 なし

ピント合わせに使われたセンサー(ローカルフォーカスフレーム)は表示されません。

※ピント位置表示 あり ⟷ なし の切り替えは、マニュアル撮影時にのみ有効です。AUTO撮影時はここでの設定に関係なく常に［ピント位置表示 あり］です。

測光モード

測光モードを、多分割測光とスポット測光とで切り替えることができます。

1. ダイヤル 🎥M 位置で、メニューボタンを押します。

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

●選んだ測光方式の絵記号が、液晶モニター画面左下に表示されます。またスポット（測光）を選んだ場合は、上面データパネルに ◘ が現れます。

多分割

スポット

多分割測光

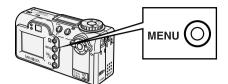
CCDを細かく分割して測光を行います。被写体までの距離情報やホワイトバランスからの色情報とも連動して、被写体の明るさを正確に把握します。人の目で見た感じに一番近く撮れる測光モードで、逆光撮影を含む一般撮影に適しています。初期設定は多分割測光です。

スポット測光

スポット測光にすると、画面中央部にスポット測光サークルが現れ、このサークル内のみで測光します。コントラスト（明暗差）の大きい被写体や、画面のある特定の部分だけを測光するのに適しています。

スポット測光サークル

撮像感度

撮影時の感度を選択することができます。感度はISO（写真フィルムの感度の単位）の数値に換算して表されます。初期設定であるAuto（オート）にすると、明るさや撮影状況などに応じて自動的に感度が調整されます。暗い場所での撮影やフラッシュ光の到達距離を伸ばしたいときなどには、感度を上げると効果的ですが、画像が粗くなることがあります。

1. ダイヤル M 位置で、メニューボタンを押します。

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

メニューボタン押し、または、シャッターボタン半押しで元の画面へ

●感度は以下の範囲から選べます。
　オート（Auto）、ISO 100、ISO 200、ISO 400、ISO 800

●オート（Auto）に設定すると、
フラッシュモードが自動発光モード、または、赤目軽減自動発光モードのとき
→ ISO 100〜200 の範囲で自動設定されます。ただし、フラッシュが発光するときは ISO 200 固定となります。
フラッシュモードが強制発光/赤目軽減強制発光モード、または、発光禁止モードのとき
→ ISO 100〜200 の範囲で自動設定されます。
露出モード M（マニュアル）モード（→ P. 74）時には ISO 100で固定されます。

●オート（Auto）以外の撮像感度を選んだときは、上面データパネルに **ISO** 表示が、液晶モニター画面左下には ISO と選んだ値が表示されます。

マニュアル撮影

撮像感度変更時のフラッシュ調光距離

撮像感度を変更すると、フラッシュ調光距離（フラッシュ光の届く距離）は以下の通りになります。

撮像感度	フラッシュ調光距離	
	広角側	望遠側
オート（Auto）	0.5〜2.9m	0.5〜1.7m
ISO 100	0.5〜2.0m	0.5〜1.2m
ISO 200	0.5〜2.9m	0.5〜1.7m
ISO 400	0.5〜4.1m	0.5〜2.4m
ISO 800	0.5〜5.8m	0.5〜3.4m

画像エフェクト

カラーの画像を撮影するか、モノクロの画像を撮影するかを設定できます（カラーモード）。
また、撮影する画像の、シャープネス（鮮鋭度）、コントラスト（明暗差）、彩度（色の鮮やかさ）を調整することができます。

カラーモード

- Color　24bitの通常の標準カラー画像が撮影されます。初期設定はColor（ノーマルカラー）です。
- VIVID　24bitのカラー画像ですが、上記Color（ノーマルカラー）より色鮮やかなカラー画像が撮影されます。下記彩度の調整ではすべての色の彩度が変わりますが、VIVID（ビビッド）では彩度の高い部分の明るさがより強調されます。
- BW　8bitの白黒画像が撮影されます。BW（白黒）でも、画像ファイルサイズは ノーマルカラー または ビビッド と同じです。

S シャープネス

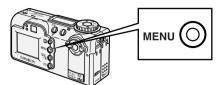
＋（ハード）	輪郭が明確に表現され、くっきりとした鮮明な画像になります。
標準	標準的な鮮明さの画像になります。初期設定は標準です。
－（ソフト）	輪郭のやわらかな画像になります。

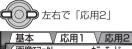
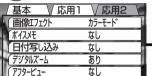
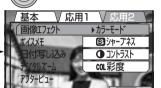
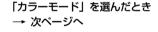
◐ コントラスト

＋（強い）	コントラストが強くなります。メリハリの効いた画像になります。
標準	標準的なコントラストの画像になります。初期設定は標準です。
－（弱い）	コントラストが弱くなります。白い部分が飛んだり黒い部分がつぶれたりすることが少なくなります。

COL 彩度

＋（あざやか）	彩度が強くなります。色鮮やかでくっきりとした画像になります。
標準	標準的な彩度の画像になります。初期設定は標準です。
－（おちついた）	彩度が弱くなります。落ち着いた画像になります。

1. ダイヤル 📷M 位置で、メニューボタンを押します。

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

上下で「画像エフェクト」

右側に移動

「カラーモード」を選んだとき
→ 次ページへ

「シャープネス」を選んだとき
→ 99ページへ

「コントラスト」を選んだとき
→ 100ページへ

「彩度」を選んだとき
→ 101ページへ

画像エフェクト

カラーモード

1. 前ページの手順で、「カラーモード」を選び、十字キー中央の実行ボタンを押します。

●カラーモードを選ぶ画面（下図）が現れます。

2. 左右の十字キーで、カラーモードを 以下の3つから選びます。

Color （24bitの標準ノーマルカラー画像）
VIVID （24bitのカラー画像で、Colorよりも色鮮やかなカラー画像）
BW （8bitの白黒画像）

●十字キーの左 または 右を押すたびに、液晶モニター画面上部に選んだカラーモードが表示されます。
●BW（白黒）を選んだときは、背景のライブビュー画像も白黒表示されます。

●メニューボタンを押すと、カラーモードは変更されずにライブビュー画面にもどります。

3. 十字キー中央の実行ボタンを押して、ライブビュー画面にもどります。

●BW（白黒）に設定しても、記録される画像のファイルサイズは、Color（ノーマルカラー）、または、VIVID（ビビッド）設定時と同じです。
●BW（白黒）に設定したときは、彩度（→ P.101）を変えることはできません。

シャープネス

1. 97ページの手順で、「シャープネス」を選び、十字キー中央の実行ボタンを押します。

●シャープネス（鮮鋭度）を選ぶ画面（下図）が現れます。

2. 左右の十字キーで、シャープネスを 以下の3つから選びます。

S+ ＋（ハード）
S 標準
S− −（ソフト）

●十字キーの左 または 右を押すたびに、液晶モニター画面左に選んだシャープネスの絵記号が表示されます。
●＋（ハード）、または、−（ソフト）を選んだときは、それに応じてライブビュー画像のシャープネスも変わります。

●メニューボタンを押すと、シャープネスは変更されずにライブビュー画面にもどります。

3. 十字キー中央の実行ボタンを押して、ライブビュー画面にもどります。

●標準以外に設定すると、液晶モニター画面左上に S と＋（ハード設定時）、または、−（ソフト設定時）が表示されます。

●画質でスタンダード等JPEGを選択した場合、圧縮される前に調整が行われるので、後でパソコン等で加工するのと比べるとより画質の劣化を押さえることができます。

マニュアル撮影

画像エフェクト

コントラスト

1. 97ページの手順で、「コントラスト」を選び、十字キー中央の実行ボタンを押します。

●コントラスト(明暗差)を選ぶ画面(下図)が現れます。

2. 左右の十字キーで、コントラストを 以下の3つから選びます。

◐+	+(強い)
◐	標準
◐−	−(弱い)

●十字キーの左 または 右を押すたびに、液晶モニター画面左に選んだコントラストの絵記号が表示されます。
●+(強い)、または、−(弱い) を選んだときは、それに応じてライブビュー画像のコントラストも変わります。
●メニューボタンを押すと、コントラストは変更されずにライブビュー画面にもどります。

3. 十字キー中央の実行ボタンを押して、ライブビュー画面にもどります。

●標準以外に設定すると、液晶モニター画面左上に ◐ と+(強い設定時)、または、−(弱い設定時) が表示されます。

●画質でスタンダード等JPEGを選択した場合、圧縮される前に調整が行われるので、後でパソコン等で加工するのと比べるとより画質の劣化を押さえることができます。

彩度

1. 97ページの手順で、「彩度」を選び、十字キー中央の実行ボタンを押します。

●彩度(色の鮮やかさ)を選ぶ画面(下図)が現れます。
●カラーモードに BW(白黒)を設定したとき(→ P. 98)は、彩度を変えることはできません。

2. 左右の十字キーで、彩度を 以下の3つから選びます。

COL+	+(あざやか)
COL	標準
COL−	−(おちついた)

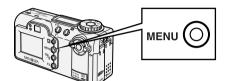
●十字キーの左 または 右を押すたびに、液晶モニター画面左に選んだ彩度の絵記号が表示されます。
●+(あざやか)、または、−(おちついた) を選んだときは、それに応じてライブビュー画像の彩度も変わります。
●メニューボタンを押すと、彩度は変更されずにライブビュー画面にもどります。

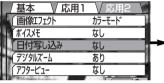
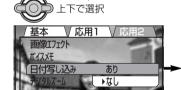
3. 十字キー中央の実行ボタンを押して、ライブビュー画面にもどります。

●標準以外に設定すると、液晶モニター画面左上に COL と+(あざやか設定時)、または、−(おちついた設定時) が表示されます。

●画質でスタンダード等JPEGを選択した場合、圧縮される前に調整が行われるので、後でパソコン等で加工するのと比べるとより画質の劣化を押さえることができます。

日付写し込み

撮影の年月日を、画像の右下に入れることができます。

1. ダイヤル 📷M 位置で、メニューボタンを押します。

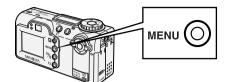
2. 十字キーで希望の設定を選びます。

メニューボタン押し、または、シャッターボタン半押しで元の画面へ

日付写し込み「あり」のときは、液晶モニター画面右下に黄色のバーが表示されます。

- 日付写し込み「なし」に設定していても、撮影時の年月日・時刻は記録され、再生時には液晶モニター画面左下に表示されます。
- 動画（→ P. 107）には写し込みはできません。

※年月日の並びを変更するときは → P. 169

アフタービュー

撮影直後に、撮影した画像を指定時間 液晶モニターに表示させます。

1. ダイヤル 📷M 位置で、メニューボタンを押します。

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

アフタービュー「なし」

撮影後すぐに画像が保存され、ライブビュー画面（そのときにレンズが向けられている被写体が画面に表示される）にもどります。

アフタービュー「2秒」「10秒」

撮影後、2秒間 または 10秒間 撮影した画像が液晶モニターに表示され、その後自動的に保存されます。

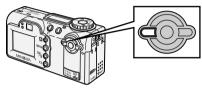
- 2秒間 または 10秒間 撮った画像が表示されている間にシャッターボタンを半押しすると、アフタービューはキャンセルされてすぐに画像が保存されます。
- 連続撮影やブラケット撮影時にアフタービュー「2秒」または「10秒」に設定すると、インデックス表示（6コマが同時に表示される）になります。ただし、日付写し込み（→ P.102）を「あり」に設定しているときは、6コマ同時には表示されません。

バルブ(長時間露光)撮影

シャッターボタンを押し続けている間、シャッターが開いたままになります(最長15秒)。カメラを三脚に取り付けて撮影してください。

※ドライブモード(→ P.46)が「1コマ撮影」の場合のみ設定できます(他のドライブモードでは bulb を選ぶと「1コマ撮影」になります)。

1. マニュアル撮影モード(メインスイッチ/モード切り替えダイヤル M 位置)で、露出モードをM(マニュアル)モードにします。→ P. 70

2. 左の十字キーを押して、液晶モニター画面左下のシャッター速度が表示されている箇所に bulb を表示させます。

- 4"(4秒)の次に左の十字キーを押すと、bulb(バルブ撮影)が表示されます。
- シャッター速度が青色で表示されていない(左に ◆ が表示されていない)ときは、露出補正ボタンを押して、シャッター速度を青色で表示させて(左に ◆ を表示させて)ください。

3. 露出補正ボタンを押して絞り値を青色表示させ、左右の十字キーで希望の絞り値を選びます。

4. 必要な時間シャッターボタンを押し続けて撮影します。

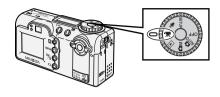
- 高感度域で長時間露光する場合は、画面内のノイズが一部強調されることがあります。
- 15秒経過すると、シャッターボタンを押し続けていてもバルブ(長時間露光)撮影は終了します。

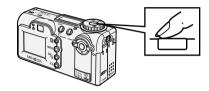
動画を撮影できます 動画撮影編

この章では、メインスイッチ/モード切り替えダイヤルが 動画 位置にあるときの各種設定について説明しています。

メインスイッチ/モード切り替えダイヤルを 動画 位置にしていると、液晶モニター画面左上に 動画 が現れます。

動画撮影

連続最長35秒までの動画撮影を行うことができます。

1. メインスイッチ/モード切り替えダイヤルを 🎥 に合わせます。

●液晶モニター画面右下と上面データパネルに、撮影可能な残り秒数が表示されます。

2. シャッターボタンを押して動画撮影を開始します。

●撮影中は、液晶モニター画面右下の残り秒数の上に ● Rec が表示され、液晶モニター右下/上面データパネルの残り秒数が減っていきます。

3. 動画撮影を止めるときは、もう一度シャッターボタンを押します。

●液晶モニター右下/上面データパネルの残り秒数が 0 になったときは、シャッターボタンを再度押さなくても自動的に撮影が終了します。

動画撮影では、設定できる機能に制限があります。以下の機能は、カメラを動画モードにした後でも、実際に動画を撮影する前なら設定可能です。

- ●上下十字キーによるズーム
- ●露出補正

以下の機能は、動画撮影時は設定が固定(機能が限定)されます。変更はできません。

●画像サイズ	:	QVGA (320×240)
●形式	:	Motion-JPEG (.MOV)
●フォーカスモード (AF/MF)	:	オートフォーカス (ただし、動画撮影中はオートフォーカスは働きません)
●露出モード	:	P (プログラム) モード
●ホワイトバランス	:	オート (Auto)
●撮像感度	:	オート (Auto)
●フォーカスエリア	:	ワイドフォーカスフレーム
●フラッシュモード	:	発光禁止
●ズーミング	:	デジタルズーム(域)でのズーミングのみ可能

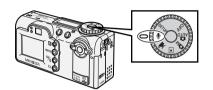
以下の機能は、動画撮影前/動画撮影中には使用できません。

●デジタル撮影シーンセレクター　●メニュー設定　●フラッシュモードの変更

●動画のファイルサイズは、1秒あたり約340KBです。容量16MBのSDメモリーカードには、合計約41秒間記録することができます。
●ピント位置は動画撮影開始時の位置で固定されます。
●同時に音声も記録されます。音声の記録だけをキャンセルすることはできません。

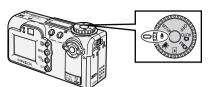
●IRリモコン RC-3 を使えば、カメラから離れた位置から動画撮影の開始/停止が行えます。リモコンの撮影ボタンを押すと直ちに、2秒後撮影ボタンを押すと約2秒後に、動画撮影が開始されます。停止するときはどちらのボタンを押しても直ちに動画撮影が停止します。

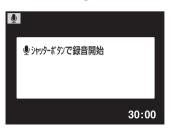
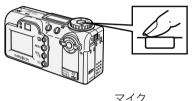
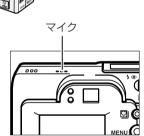
●動画の再生は → P. 118

音声を記録できます
音声記録（ボイスレコーディング）編

この章では、メインスイッチ/モード切り替えダイヤルが 🎙 位置にあるときの各種設定について説明しています。

メインスイッチ/モード切り替えダイヤルを 🎙 位置にしていると、液晶モニター画面左上に 🎙 が現れます。

音声記録（ボイスレコーディング）

連続最長30分までの音声記録ができます。

1. メインスイッチ/モード切り替えダイヤルを 🎙 に合わせます。

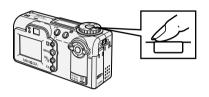
- 液晶モニターに下記左側の画面が、上面データパネルには下記右側の表示が現れます。液晶モニター右下/上面データパネルに録音可能な残り時間数が表示されます。

- メインスイッチ/モード切り替えダイヤルを 🎙 に合わせると、液晶モニターは点灯します。液晶モニターボタンを押すと液晶モニターを消灯できます。液晶モニター消灯時は上面データパネルで録音開始からの経過時間を確認しながら操作できます。

2. シャッターボタンを押して音声記録を開始します。

- マイクから20㎝程度離れて真っすぐマイクに向かってしゃべるか、マイクを真っすぐ音源に向けてください。大きな音声を記録すると、再生時に音が割れることがあります。

（次ページに続く ☞）

音声記録（ボイスレコーディング）

●記録中は、その状況が液晶モニターにバーグラフで表示され、液晶モニター右下の録音可能な残り時間数が減っていきます（左図 上）。
また上面データパネルでは音声記録表示が点滅し、右下に録音開始からの経過時間が表示されます（左図 下）。

●**S** は Seconds の頭文字で、左図の場合 録音開始からの経過時間が45秒 であることを表しています。
録音開始からの経過時間が1分を超えると、数字は分単位になり、**S** ではなく **M**（= Minutes）が表示されます。

3. 音声記録を止めるときは、もう一度シャッターボタンを押します。

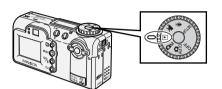
●液晶モニター右下の録音可能な残り時間数が 0 になったときは、シャッターボタンを再度押さなくても自動的に録音が終了します。

●録音（記録）中にメインスイッチ/モード切り替えダイヤルを 🎙 以外に合わせると、音声記録は中断されます。この場合、それまで録音された内容は記録されます。

●IRリモコン RC-3 を使えば、カメラから離れた位置から音声記録の開始/停止が行えます。リモコンの撮影ボタンを押すと直ちに、2秒後撮影ボタンを押すと約2秒後に、音声記録が開始されます。停止するときはどちらのボタンを押しても直ちに停止します。

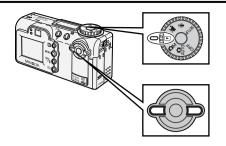
●録音された音声は、SDメモリーカード内に、WAVファイルとして保存されます（→ P. 156）。

●録音された音声は、再生モードで、十字キー中央の実行ボタンを押すと再生されます（→ P. 114）。

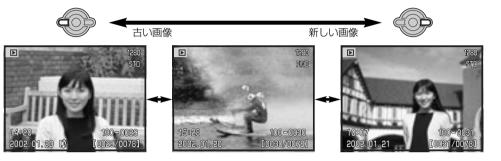
撮った画像を見たり消去したりできます
再生編

この章では、メインスイッチ/モード切り替えダイヤルが ▶ 位置にあるときの各種設定について説明しています。

メインスイッチ/モード切り替えダイヤルを ▶ 位置にしているときには、液晶モニター画面左上にも ▶ が現れます。

上面データパネルには、**PLy** の文字が現れます。

1コマ再生

1. メインスイッチ/モード切り替えダイヤルを ▶ に合わせます。

●直前に撮影された画像が液晶モニター画面に表示されます。

2. 左右の十字キーで、見たい画像を選びます。

●（左右の）十字キーを押し続けると、画像が早送りされます。
●最新画像を表示中に十字キーの右を押すと、最も古い画像（の表示）にもどります。逆も同様です。
●動画の場合は、動画開始時の画像が静止画として現れます。
●音声記録（ボイスレコーディング）の場合は、画像は表示されません（ブルーバック表示になります）。

音声の再生（ボイスメモ付き画像、音声記録の場合）

ボイスメモ付き画像や音声記録（ボイスレコーディング）を1コマ再生すると、液晶モニター画面下部中央に 🔊 が表示されます。

十字キー中央の実行ボタンを押すと、デジタルカメラのスピーカーから音声が再生されます。

【ボイスメモ付き画像の場合】

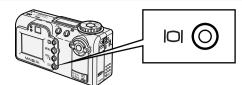
●再生中は液晶モニター上部に左図の表示が現れます。
●再生中は、上下の十字キーで再生音量の調節ができます（十字キーの上で音量アップ、下で音量ダウン）。
●再生中にメニューボタンを押すと、再生は終了します。
●液晶モニター画面右上の数値は経過秒数です。ボイスメモの時間（5秒、または、15秒）が経過しても再生は終了します。
●再生が終了すると、画面は元の1コマ再生画面にもどります。

【音声記録（ボイスレコーディング）の場合】

（再生中）

（一時停止中）

●十字キー中央の実行ボタンを押すと音声が再生されます。再生中は液晶モニター上部に左図（上側）の表示が現れます。
●再生中は、上下の十字キーで再生音量の調節ができます（十字キーの上で音量アップ、下で音量ダウン）。また左右の十字キーで再生の巻戻し・早送りができます。
●再生中に十字キー中央の実行ボタンを押すと、再生は一時停止します（左図 下側）。再開するにはもう一度十字キー中央の実行ボタンを押してください。
●再生中、または、一時停止中にメニューボタンを押すと、再生は終了します。
●液晶モニター画面右上の数値は経過時間（分：秒）です。総録音時間が経過しても再生は終了します。
●再生が終了すると、画面は元の1コマ再生画面にもどります。

液晶モニター表示の切り替え

液晶モニターボタンを押します。

- ボタンを押すごとに、液晶モニターの表示が以下の順序で切り替わります。

1コマ再生（データあり）

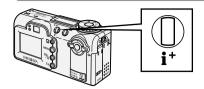
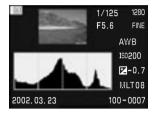
1コマ再生（データなし）

インデックス再生

インデックス再生

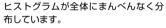
6コマ分を一度に液晶モニターに表示します。見たい画像を素早く探したいときに便利です。

- 1コマ再生からインデックス再生に表示を切り替えたときは、1コマ再生で表示されていた画像の周囲に黄色の囲み線（カーソル）が表示されます。
- 上下左右の十字キーで黄色の囲み線（カーソル）を動かして見たい画像を選びます。黄色の囲み線（カーソル）が右下の小画像の周囲にあるときに十字キーの右を押すと、次の6コマが現れます。黄色の囲み線（カーソル）が左上にあるとき十字キーの左を押すと、前の6コマが現れます。
- インデックス中に動画が含まれる場合は、動画開始時の画像が静止画として現れます。音声記録（ボイスレコーディング）の場合は、ブルーバック表示になります。

ヒストグラム（輝度分布）・撮影データ表示

1コマ再生（データあり）のとき撮影データ表示ボタンを押すと、画像のヒストグラム（輝度分布）と撮影時のデータが表示されます。
ヒストグラム・撮影データ表示のときに撮影データ表示ボタンを押すと、1コマ再生（データあり）にもどります。

- 1コマ再生（データなし）、および、インデックス再生のときは、ヒストグラム・撮影データ表示には切り替わりません。
- 十字キーの左右でコマの切り替えを行うこともできます。
- 撮影した画像をクイックビューで表示させているとき（→P.41）でも、撮影データ表示ボタンを押すと、ヒストグラム・撮影データ表示になります。もう一度撮影データ表示ボタンを押すとクイックビュー画面にもどります。

ヒストグラムについて

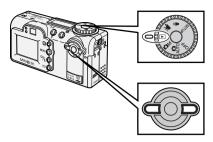
ヒストグラムとは輝度分布のことで、どの明るさの画素がどれだけ存在するかを表します。このカメラのヒストグラム表示は、横軸が明るさ（左端が黒、右端が白）を、縦軸が画素数を表しています。

ヒストグラムが全体にまんべんなく分布しています。
暗すぎて、または、明るすぎてつぶれたりする部分がほとんどありません。

画面の明暗がはっきりしており、明るい部分は白く飛んでしまう部分が多数存在します。

下の写真の場合、白く飛んだ部分には 白100% のデータ*しかありません。したがって、後でパソコンに取り込んで加工しても、つぶれた部分の再現は不可能だということになります。
*正確には、カラー画像の場合RGBで表されるので、R 255, G 255, B 255 のことをいいます。

再生

動画の再生

撮影した動画を再生します。

1. 再生モード（メインスイッチ/モード切り替えダイヤル ▶ 位置）で、左右の十字キーで再生したい動画を選びます。

●動画開始時の画像が静止画として現れます。

2. 十字キー中央の実行ボタンを押して、動画再生を開始します。

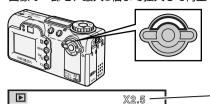
●デジタルカメラのスピーカーから音声も同時に再生されます。再生中に上下の十字キーで音量の調節ができます（十字キーの上で音量アップ、下で音量ダウン）。
●液晶モニター画面右上の数値は経過秒数です。

3. 動画再生を終えるときは、メニューボタンを押します。

●動画再生開始前の状態にもどります。
●メニューボタンではなく中央の実行ボタンを押すと、動画再生の一時停止・再スタートを繰り返します。

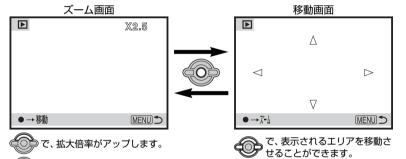
※動画再生中は、左右の十字キーでコマを切り替えることはできません。

拡大再生

画像の一部を、最大5倍まで拡大して再生できます。

再生モード（メインスイッチ/モード切り替えダイヤル ▶ 位置）で、十字キーの上を押します。

●十字キーの上を1回押すたびに、1.5倍 → 2.0倍 → 2.5倍 → 3.0倍 → 3.5倍 → 4.0倍 → 4.5倍 → 5.0倍 の順で再生画像が拡大表示されます。
●液晶モニター右上に拡大倍率が表示されます。
●十字キーの下を1回押すたびに、拡大時とは逆の順で再生画像が小さく表示されます。
●動画は拡大再生できません。

X2.5

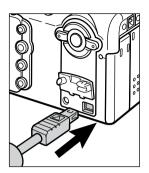
●拡大再生中に十字キー中央の実行ボタンを押すと、上下左右の十字キーで表示させるエリアを移動させることができる「移動画面」になります。十字キー中央の実行ボタンを押すたびに、拡大倍率を変更できる「ズーム画面」と「移動画面」とが切り替わります。

で、拡大倍率がアップします。

で、拡大倍率がダウンします。

で、表示されるエリアを移動させることができます。

●「ズーム画面」「移動画面」でメニューボタンを押すと、等倍表示にもどります。
●「ズーム画面」で十字キーの右を押すと、次のコマを等倍で表示します。十字キーの左を押すと、前のコマを等倍で表示します。

画像をテレビに映して見る

付属のAVケーブル AVC-100 でデジタルカメラとテレビを接続して、撮影した画像をテレビに映して見ることができます。

1. テレビとデジタルカメラの電源を切ります。

2. デジタルカメラ背面の端子カバーを開け、AVケーブルの一方(角形の形状の方)をAV出力端子に差し込みます(左図)。

3. AVケーブルのもう一方(RCAピンプラグ側)のうち、黄色のプラグをテレビのビデオ入力端子に差し込みます。白色のプラグをモノラルの音声入力端子に差し込みます。

4. テレビの電源を入れ、テレビの[テレビ/ビデオ切替]などで、ビデオ/音声入力端子からの入力に切り替えます。

●詳しくはお使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。

5. デジタルカメラのメンスイッチ/モード切り替えダイヤルを ▶ に合わせます。

● 上記の操作で、カメラの液晶モニターに現れる画像が、そのままテレビに映ります。通常の再生モードと同様に1コマ再生や音声の再生(→ 114、115ページ)、表示の切り替え(→ 116ページ)、動画の再生(→ 118ページ)、拡大再生(→ 119ページ) 等を行うことができます。

● 上記の操作で万一画像がテレビに映らない場合は、ビデオ出力形式を確認してください。→ 次ページ

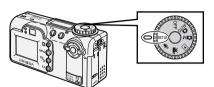
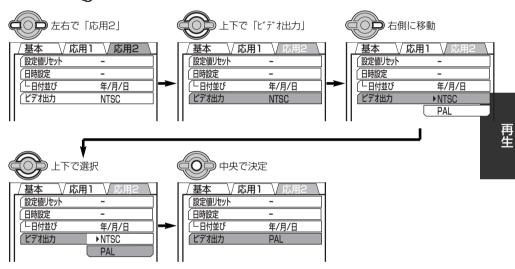
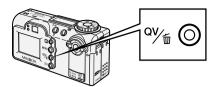
ビデオ出力形式の切り替え

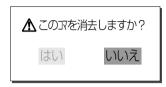
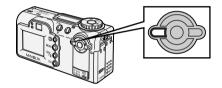
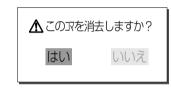
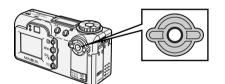
ビデオの信号形式には数パターンがあり、国によって異なります。日本やアメリカ、韓国等ではNTSC方式、ヨーロッパの多くの国々やオーストラリア、中国等ではPAL方式が採用され、両者の間には互換性がありません。このカメラの画像を日本国外のテレビで見る際には、その国に合わせた信号形式に設定してください。このカメラでは、NTSCとPALの2つの設定が可能です。

1. メインスイッチ/モード切り替えダイヤルを SETUP に合わせます。

2. 十字キーで、希望の設定を選びます。

再生

画像を手早く消去する

再生モード位置で、画像を簡単に消去することができます。

1. 再生モードで消去したい画像を再生し、クイックビュー/消去ボタンを押します。

●以下の画面が現れます。

●消去したくない場合は、上記の状態で十字キー中央の実行ボタンを押してください。

2. 左の十字キーで「はい」を選びます。

3. 十字キー中央の実行ボタンを押します。

●操作**1.**で再生させた画像が消去されます。

●他の画像も消去するときは、**1.**～**3.**の操作を繰り返します。

※複数の画像をまとめて消去するときは → P. 124

再生モード時のメニュー画面

メインスイッチ/モード切り替えダイヤルが ▶ 位置（再生モード）にあるときにメニューボタンを押すと、以下の設定が可能です。メニューボタンと十字キーを使って設定します。

タブ	項目	設定
基本	消去 → P.124	○このコマ、全コマ、コマを指定
	プロテクト → P.126	○このコマ、全コマ、コマを指定、全コマ取り消し
	アフレコ → P.128	実行する
応用1	スライドショー → P.130	実行する
	（スライドショー）再生画像 → P.131	○全コマ、コマを指定
	（スライドショー）間隔 → P.132	1～4秒、○5秒、6～60秒
	（スライドショー）繰り返し	○しない、する
応用2	プリント指定 → P.134	○このコマ、全コマ、コマを指定、全コマ取り消し
	（プリント指定） インデックスプリント → P.138	○しない、する
	画像コピー → P.139	○このコマ、コマを指定
	Eメール用画像作成 → P.144	○このコマ、コマを指定

○印は初期設定値です。

画像の消去

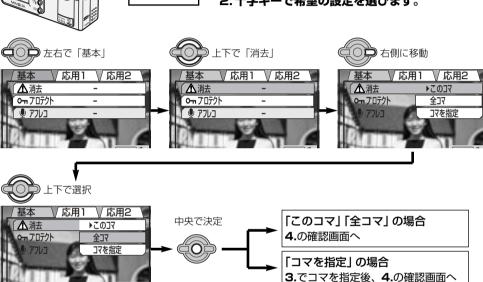
画像を消去します。以下の3通りの消去方法があります。
1コマ消去（このコマ）： 再生中の画像を1コマだけ消去します。
全コマ消去　： フォルダの画像すべてを消去します。
コマを指定　： 指定した画像だけを消去します。
※1コマずつ手早く消去する方法もあります。撮影モードでは → P. 42、再生モードでは → P. 122

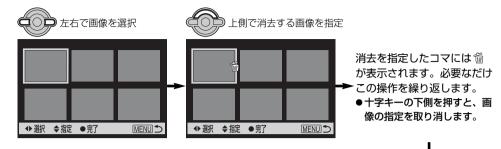
いったん消去した画像を復活させることはできません。

1. 再生モード（モード切り替えダイヤル ▶ 位置）で、メニューボタンを押します。

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

「このコマ」「全コマ」の場合
4.の確認画面へ

「コマを指定」の場合
3.でコマを指定後、4.の確認画面へ

3.「コマを指定」の場合、十字キーで消去するコマを指定し、中央の実行ボタンで実行します。

消去を指定したコマには 🗑 が表示されます。必要なだけこの操作を繰り返します。
●十字キーの下側を押すと、画像の指定を取り消します。

●十字キー中央の実行ボタンを押すと、4.の確認画面に進みます。
●十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ元の画面にもどります。

4. 確認後、消去します。（下図は全コマ消去の場合）

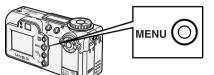
消去完了
メニューボタンで元の画面へ

● 「プロテクトされています」のメッセージが現れる場合は、画像がプロテクト（誤消去防止、→次ページ）されています。該当する画像は消去できません。

再生

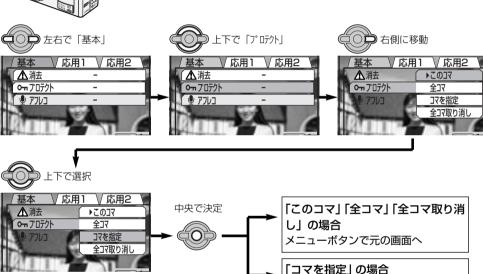
プロテクト（誤消去防止）

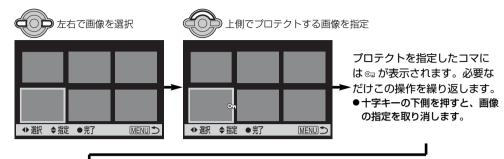
撮影した画像をロックし、間違って消去しないようにすることができます。1コマ/全コマ/コマ指定の3通りのプロテクト方法と、プロテクト設定の取り消しメニューとがあります。

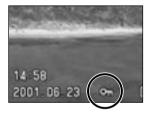
1コマプロテクト（このコマ）：再生中の画像1コマだけにプロテクトをかけます。1コマだけプロテクトを取り消す場合にも使用します。
全コマプロテクト：フォルダ内の画像すべてにプロテクトをかけます。
プロテクトするコマを指定：指定した画像だけにプロテクトをかけます。
全コマプロテクト取り消し：フォルダ内の画像すべてのプロテクトを取り消します。

1. 再生モード（モード切り替えダイヤル ▶ 位置）で、メニューボタンを押します。

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

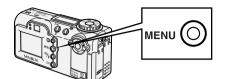
「このコマ」「全コマ」「全コマ取り消し」の場合
メニューボタンで元の画面へ

「コマを指定」の場合
3.に進んでコマを指定

3.「コマを指定」の場合、十字キーでプロテクトをかける（または、解除する）コマを指定し、中央の実行ボタンで実行します。

プロテクトを指定したコマには 🔑 が表示されます。必要なだけこの操作を繰り返します。
- 十字キーの下側を押すと、画像の指定を取り消します。

- 十字キー中央の実行ボタンを押すと、プロテクトが完了します。その後メニューボタンで元の画面にもどります。
- 十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ元の画面にもどります。

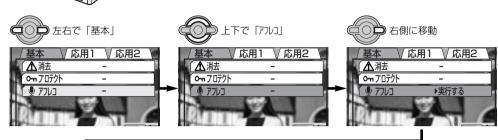
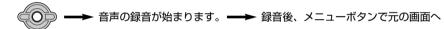
再生

- 再生時、プロテクトのかかった画像には、液晶モニター画面に 🔑 が表示されます。

アフレコ

再生モードで画像に15秒までの音声メモを付けることができます。ボイスメモ機能（→ P. 58）で撮影時に付けた音声メモを書き換えることもできます。

1. 再生モード（モード切り替えダイヤル ▶ 位置）で、メニューボタンを押します。

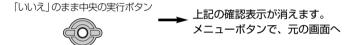
2. 十字キーで希望の設定を選びます。

中央で決定

音声の録音が始まります。→ 録音後、メニューボタンで元の画面へ

- カメラのマイクから20㎝くらい離れたところから、マイクに真っすぐ向かってしゃべる等してください。あまり大きな音声を録音すると再生時に音が割れることがあります。
- 録音中は、左図の表示が現れ、図中のバーグラフが録音の進行状況をお知らせします。また、液晶モニター右下に録音可能な残り時間（秒数）が表示されます。
- 十字キー中央の実行ボタンを押すと、途中で録音を終了できます。

ボイスメモ機能で撮影時にすでに音声メモを付けた画像にアフレコしようとすると、左図の確認表示が現れます。

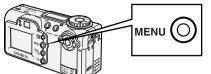
新たに音声メモを付け直す（音声を上書きする）場合

ボイスメモの音声を残す（音声を上書きしない）場合

- 動画、および、音声記録（ボイスレコーディング）にはアフレコはできません。

再生

スライドショー(画像の自動再生)

SDメモリーカードに記録されている画像を、自動的に順番に表示させることができます。初期設定では、SDメモリーカード内のすべての画像が最初から順に5秒ずつ表示されます。

● 動画、および、音声記録(ボイスレコーディング)ファイルは、スライドショー再生できません。

1. 再生モード(モード切り替えダイヤル ▶ 位置)で、メニューボタンを押します。

2. 十字キーでスライドショーを開始させます。

スライドショーが開始されます。

● スライドショー実行中に十字キーの中央を押すと、スライドショーの一時停止・再スタートが繰り返されます。

3. スライドショーを終えるときは、十字キーの下を押します。

● その後メニューボタンを押すと、元の再生モードにもどります。

スライドショーの設定変更

スライドショーの設定を以下の通り変更することができます。

再生画像 : 全コマ(全コマを再生する)/コマを指定(再生するコマを指定する)
間隔(画像表示時間) : 1秒〜60秒の範囲内で、1秒ごと
繰り返し : する/しない

1. 再生モード(モード切り替えダイヤル ▶ 位置)で、メニューボタンを押します。

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

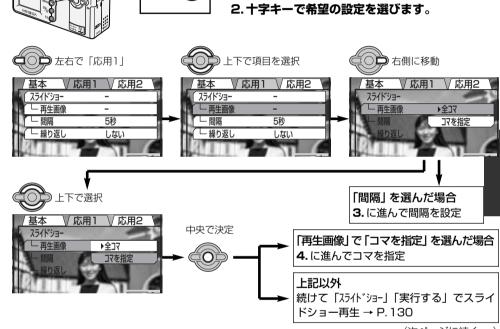
「間隔」を選んだ場合
3. に進んで間隔を設定

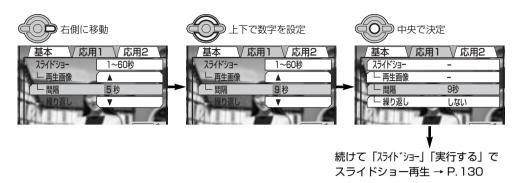
「再生画像」で「コマを指定」を選んだ場合
4. に進んでコマを指定

上記以外
続けて「ｽﾗｲﾄﾞｼｮｰ」「実行する」でスライドショー再生 → P. 130

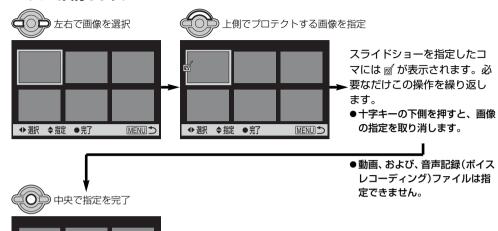
(次ページに続く ☞)

再生

スライドショー（画像の自動再生）

3. 項目で「間隔」を選んだときは、上下の十字キーで再生の間隔を設定します。

続けて「ｽﾗｲﾄﾞｼｮｰ」「実行する」で
スライドショー再生 → P. 130

4.「コマを指定」の場合、十字キーでスライドショー再生するコマを指定し、中央の実行ボタンで実行します。

スライドショーを指定したコマには ☑ が表示されます。必要なだけこの操作を繰り返します。

- 十字キーの下側を押すと、画像の指定を取り消します。
- 動画、および、音声記録（ボイスレコーディング）ファイルは指定できません。

- 十字キー中央の実行ボタンを押すと、スライドショーのコマ指定は完了します。
- 十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ元の画面にもどります。

続けて「ｽﾗｲﾄﾞｼｮｰ」「実行する」で
スライドショー再生 → P. 130

プリント指定

このカメラでプリント指定したSDメモリーカードを、DPOF*対応のプリント店に渡せば、画像のプリントをしてもらうことができます。どの画像を何枚プリントするかを、あらかじめカメラで指定しておくことができます。同様に、DPOF対応のプリンタにSDメモリーカードをセットすると、パソコンを介さずに直接画像をプリントすることができます。この場合も、どの画像を何枚プリントするかを、あらかじめカメラで指定しておくことができます。

*DPOF＝ディーポフ、Ditigal Print Order Formatの略。SDメモリーカード等のメディアに入っているデータのうち、どれを印刷するのかを指定する方法。

デジタルカメラで撮影した画像をプリントする方法はいくつかあります。

①ご自分のプリンタで印刷する
画像をパソコンに取り込んでそこから印刷する方法が一般的です。DPOF対応のプリンタですと、パソコンを介さずに直接カードから印刷できます。

②ご購入店やカメラ店などにプリントを依頼する
カードをお店にお持ちになると、普通のフィルムのようにプリントできます。

③ネットプリントを利用する
MINOLTA CLUB PHOTONAVIGATIONなど、インターネットを介してプリントの依頼ができます。

プリント指定

どの画像を何枚プリントするかを指定することができます。以下の3通りの指定方法があります。

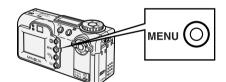
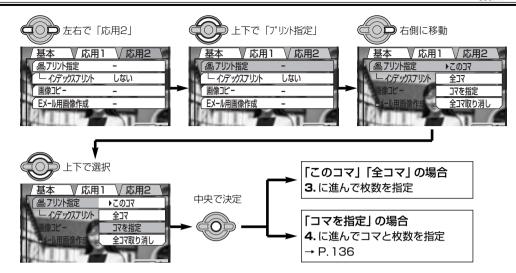
このコマ（1コマプリント）：再生中の画像を1コマだけプリントします。
全コマ（全コマプリント）：フォルダ内の画像すべてをプリントします。
コマを指定：指定した画像だけをプリントします。

●動画はプリント指定できません。

1. 再生モード（モード切り替えダイヤル ▶ 位置）で、メニューボタンを押します。

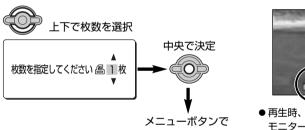
2. 十字キーで希望の設定を選びます。

「このコマ」「全コマ」の場合
3. に進んで枚数を指定

「コマを指定」の場合
4. に進んでコマと枚数を指定
→ P. 136

3.「このコマ」「全コマ」の場合、十字キーで希望の枚数を選んで実行します。

●1コマ（このコマ）プリントの場合、指定した1コマのプリント枚数を選ぶことができます（0〜9枚）。
●全コマプリントの場合、全コマとも同じプリント枚数しか選べません（0〜9枚）。

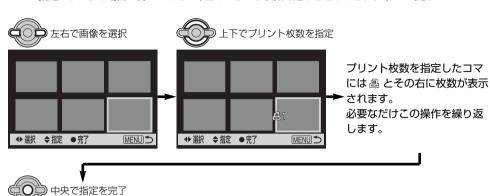
●再生時、プリント指定された画像には、液晶モニター画面に 🖶 と枚数が表示されます。

再生

（次ページに続く ☞）

プリント指定

4.「コマを指定」の場合、十字キーでプリントするコマを指定して枚数を選び、中央の実行ボタンで実行します。

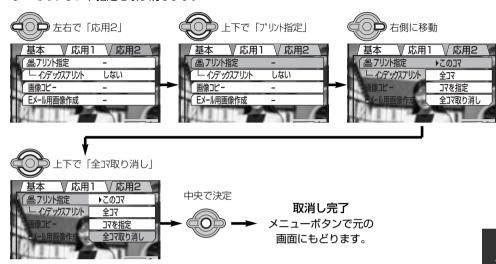
●コマ指定プリントの場合、各コマごとに希望のプリント枚数を選ぶことができます（0〜9枚）。

プリント枚数を指定したコマには🖶とその右に枚数が表示されます。
必要なだけこの操作を繰り返します。

●十字キー中央の実行ボタンを押すと、プリント指定は完了します。その後メニューボタンで元の画面にもどります。
●十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ元の画面にもどります。

●再生時、プリント指定された画像には、液晶モニター画面に🖶と枚数が表示されます。

プリント指定の取り消し

すべてのプリント指定を取り消します。

取消し完了
メニューボタンで元の画面にもどります。

●この操作でもインデックスプリント（→ P.138）は取り消されません。インデックスプリントを取り消す場合は、次ページの操作でインデックスプリントを「しない」に設定してください。

プリント指定

インデックスプリント

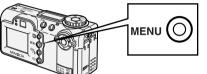
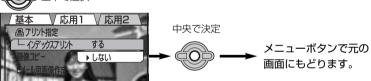
SDメモリーカードに記録されているすべての画像をまとめてプリントすることができます（インデックスプリント）。このカメラでは、1コマずつのプリントと合わせて、このインデックスプリントの有無を指定することができます。初期設定ではインデックスプリントはされません。

● 1枚のプリントに印刷される画像の数や形式は、プリンタによって異なります。

1. 再生モード（モード切り替えダイヤル ▶ 位置）で、メニューボタンを押します。

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

中央で決定

メニューボタンで元の画面にもどります。

画像のコピー

あるSDメモリーカードに記録された画像を、別のSDメモリーカードにコピーすることができます。
1コマコピー（このコマ）：再生中の画像1コマだけコピーします。
コマを指定　　　　：指定した画像だけをコピーします。

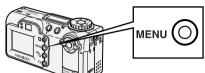
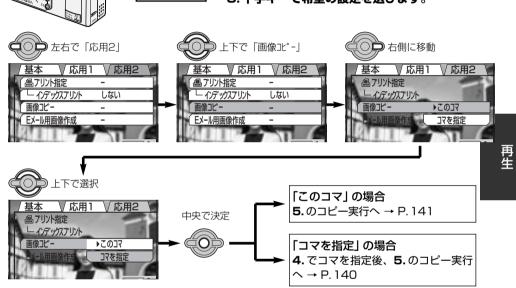
1. コピーする画像が入ったSDメモリーカードをカメラに入れます。

2. 再生モード（モード切り替えダイヤル ▶ 位置）で、メニューボタンを押します。

3. 十字キーで希望の設定を選びます。

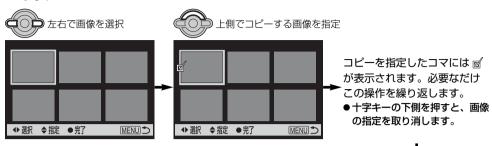
「このコマ」の場合
5. のコピー実行へ → P.141

「コマを指定」の場合
4. でコマを指定後、**5.** のコピー実行へ → P.140

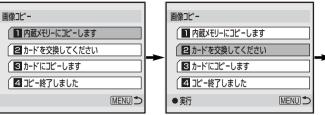
再生

（次ページに続く ☞）

4.「コマを指定」の場合、十字キーでコピーするコマを指定し、中央の実行ボタンで実行します。

コピーを指定したコマには ☑ が表示されます。必要なだけこの操作を繰り返します。

- **十字キーの下側を押すと、画像の指定を取り消します。**

- 十字キー中央の実行ボタンを押すと、**5.**のコピー実行画面に進みます。
- 十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ元の画面にもどります。

5.画面の指示にしたがって、コピーを実行します。

この状態でしばらく待ちます。

SDメモリーカードを交換した後（→ P. 23）、十字キー中央の実行ボタンを押します。

- カードを交換しないで同じカード内でコピーすることもできます。
- メニューボタンを押すと、元にもどります。

この状態でしばらく待ちます。

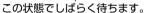
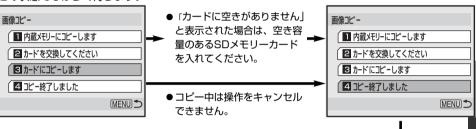
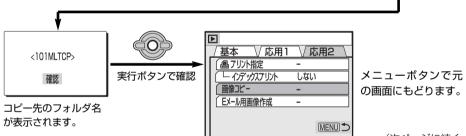
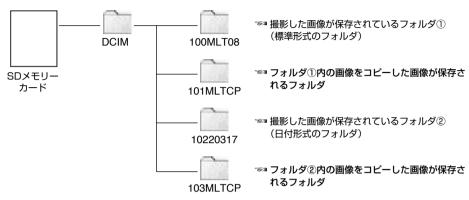
- 「カードに空きがありません」と表示された場合は、空き容量のあるSDメモリーカードを入れてください。
- コピー中は操作をキャンセルできません。

コピー先のフォルダ名が表示されます。

メニューボタンで元の画面にもどります。

（次ページに続く ☞）

再生

画像コピー

- コピーされた画像は、SDメモリーカード内に作られる “MLTCP” という名前のフォルダにまとめて保存されます。
  先頭の3桁の数字はフォルダの通し番号で、新しいフォルダが作られるたびに1つずつ増えていきます（「カード内のすべての通し番号の最大値 ＋1」の値になります）。フォルダ形式についての詳細は → P. 157

- ボイスメモやアフレコで音声を付けた画像をコピーすると、コピーされた画像にもコピー元画像と同じ音声が付けられます。
- 動画や音声記録（ボイスレコーディング）のファイルもコピーできます。
- プロテクト（誤消去防止の設定）された画像もコピーできます。ただし、コピーされた画像はプロテクトが解除されます。
- コピー元画像とコピーされた画像とはそれぞれ別のファイルとして扱われます。たとえば、あるコピー元画像を消去しても、それからコピーされた画像は消去されずに残っています。

画像が多すぎます
指定し直してください

「画像が多すぎます。指定し直してください。」というメッセージが現れた場合：
指定した画像全体のファイルサイズが大きくて、内蔵メモリーにコピーできません。画像の数を減らして指定し直してください。（内蔵メモリーには約14MBコピーできます。）

Eメール用画像作成

SDメモリーカードに記録された画像を、Eメールに添付して送信する際に適した画像サイズにサイズや画質を変更して、同じSDメモリーカード、または、別のSDメモリーカードにコピーすることができます。

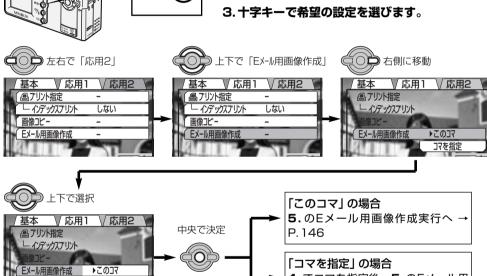
このコマ　：再生中の画像1コマをサイズ変更してコピーします。
コマを指定　：指定した画像をサイズ変更してコピーします。

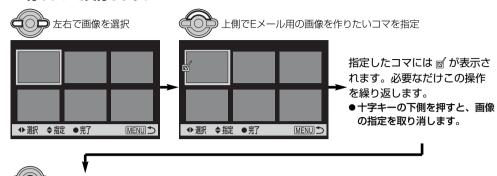
1. 画像が入ったSDメモリーカードをカメラに入れます。

2. 再生モード（モード切り替えダイヤル ▶ 位置）で、メニューボタンを押します。

3. 十字キーで希望の設定を選びます。

「このコマ」の場合
5. のEメール用画像作成実行へ → P. 146

「コマを指定」の場合
4. でコマを指定後、**5.** のEメール用画像作成実行へ → P. 145

4.「コマを指定」の場合、十字キーでEメール用の画像を作りたいコマを指定し、中央の実行ボタンで実行します。

指定したコマには ☑ が表示されます。必要なだけこの操作を繰り返します。
- 十字キーの下側を押すと、画像の指定を取り消します。

- 十字キー中央の実行ボタンを押すと、**5.**のEメール用画像作成実行画面に進みます。
- 十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ元の画面にもどります。

再生

（次ページに続く ☞）

Eメール用画像作成

5. 画面の指示にしたがって、作業を実行します。

この状態でしばらく待ちます。

SDメモリーカードを交換した後（→ P. 23）、十字キー中央の実行ボタンを押します。

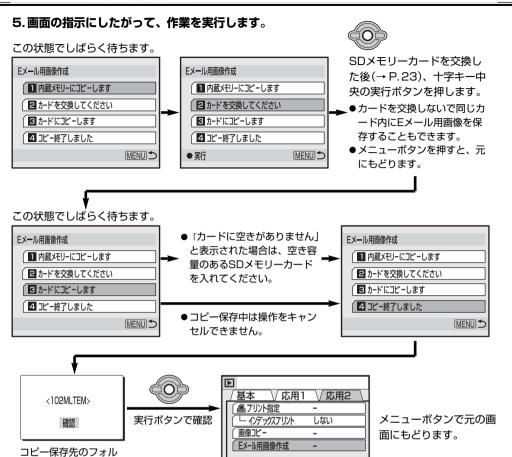
- カードを交換しないで同じカード内にEメール用画像を保存することもできます。
- メニューボタンを押すと、元にもどります。

この状態でしばらく待ちます。

- 「カードに空きがありません」と表示された場合は、空き容量のあるSDメモリーカードを入れてください。
- コピー保存中は操作をキャンセルできません。

コピー保存先のフォルダ名が表示されます。

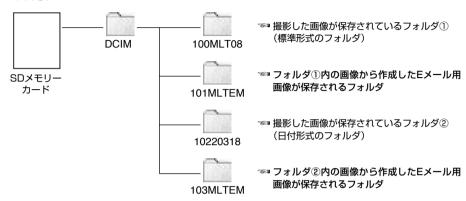
実行ボタンで確認

メニューボタンで元の画面にもどります。

元画像から 640ドット×480ドットのJPEG画像を作成し（下表を参照）、元画像とは別のフォルダにコピー保存します。（保存されるフォルダについては、次ページを参照）

元画像			Eメール用に作成される画像	
画質	画像サイズ		画質	画像サイズ
スーパーファイン（TIFF画像）	2272×1704	→	スタンダード（JPEG画像）	640×480
	1600×1200			
	1280×960			
	640×480			
ファイン スタンダード（JPEG画像）	2272×1704			
	1600×1200			
	1280×960			
	640×480			
エコノミー（JPEG画像）	2272×1704	→	エコノミー（JPEG画像）	
	1600×1200			
	1280×960			
	640×480			

（次ページに続く ☞）

Eメール用画像作成

- 作成されたEメール用画像は、SDメモリーカード内に作られる“MLTEM”という名前のフォルダにまとめて保存されます。
  先頭の3桁の数字はフォルダの通し番号で、新しいフォルダが作られるたびに1つずつ増えていきます（「カード内のすべての通し番号の最大値 ＋1」の値になります）。フォルダ形式についての詳細は→P. 157

- ボイスメモやアフレコで音声を付けた画像から作成されたEメール用画像には、元画像と同じ音声が付けられています。
- 動画や音声記録（ボイスレコーディング）のファイルからは、Eメール用画像は作成できません。
- プロテクト（誤消去防止の設定）された画像からもEメール用画像を作成できます。ただし、作成された画像はプロテクトが解除されます。
- 元画像とEメール用に作成された画像とはそれぞれ別のファイルとして扱われます。たとえば、ある元画像を消去しても、それから作成されたEメール用画像は消去されずに残っています。

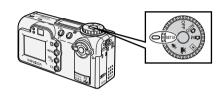
画像が多すぎます
指定し直してください

「画像が多すぎます。指定し直してください。」というメッセージが現れた場合：

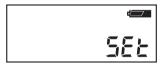
指定した画像全体のファイルサイズが大きくて、カメラの内蔵メモリーにコピーできません。画像の数を減らして指定し直してください。（Eメール用画像作成の場合、内蔵メモリーには約9MBコピーできます。）

Eメール用画像作成の場合、コピー元として選択できる画像の枚数は、
TIFF画像（スーパーファイン画質）では、1コマのみ
JPEG画像（ファイン/スタンダード/エコノミー画質）では、最大20コマ
となります。

したがって、以下のような操作をすると、上記「画像が多すぎます。指定し直してください」のメッセージが表示されます。
・コピー元にTIFF画像を2コマ以上選択する
・コピー元としてすでに1コマのTIFF画像を選択していて、さらに他のJPEG画像を選択する
・コピー元としてすでに1コマのJPEG画像を選択していて、さらに他のTIFF画像を選択する

カメラの細かな設定を変更できます セットアップ編

この章では、メインスイッチ/モード切り替えダイヤルが **SETUP** 位置にあるときの各種設定について説明しています。

基本	応用1	応用2
モニター明るさ	–	
⚠フォーマット	–	
パワーセーブ	1分	
言語/Lang	日本語/JPN	

メインスイッチ/モード切り替えダイヤルを **SETUP** 位置にしているときには、液晶モニター画面にセットアップメニュー画面が現れます。

上面データパネルには、***SEt*** の文字が現れます。

セットアップモード時の設定

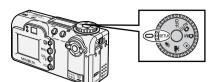
基本	応用1	応用2
モニター明るさ	–	
⚠フォーマット	–	
パワーセーブ	1分	
言語/Lang	日本語/JPN	

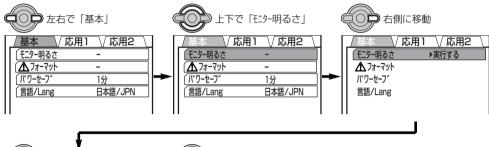
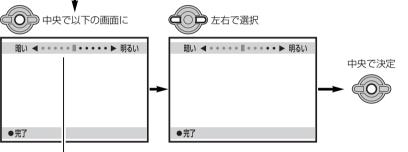
メインスイッチ/モード切り替えダイヤルがSETUP位置（セットアップモード）にあるときは、以下の設定が可能です。メニューボタンと十字キーを使って設定します。

タブ	項目	設定
基本	モニター明るさ →P. 152	○±0（±5段階）
	フォーマット（初期化）→P. 153	実行する
	パワーセーブ →P. 154	○1分、3分、5分、10分
	言語/Lang. →P. 155	○日本語、英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語
応用1	ファイルNo.メモリ →P. 159	○しない、する
	フォルダ選択 →P. 158	○標準形式、日付形式
	操作音 →P. 160	○音1、音2、なし
	シャッター音 →P. 161	○音1、音2、なし
	音量 →P. 162	1（小さい）、○2、3（大きい）
応用2	設定値リセット →P. 163	実行する
	日時設定 →P. 167	実行する
	日付並び →P. 169	○年月日、月日年、日月年
	ビデオ出力 →P. 121	○NTSC、PAL

○印は初期設定値です。

液晶モニターの明るさ調整

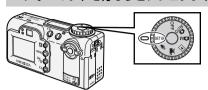
液晶モニターの明るさを選べます。

1. メインスイッチ/モード切り替えダイヤルを SETUP に合わせます。

2. 十字キーで、希望の設定を選びます。

●液晶モニターの明るさ（の目安）を示す指標が青色で表示されます。

●設定に応じて液晶モニターの明るさが変わります。

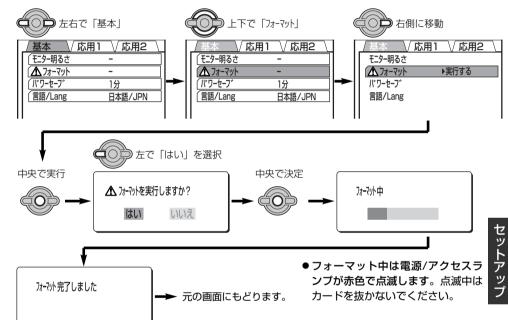
SDメモリーカードのフォーマット（初期化）

画像やフォルダをすべて消去するときには、SDメモリーカード（以下、カード）のフォーマット（初期化）が便利です。

フォーマットを行なうと、プロテクトをかけた画像も含めてすべての画像が消去されます。

1. フォーマットするカードをカメラに入れます。

2. メインスイッチ/モード切り替えダイヤルを SETUP に合わせます。

3. 十字キーで、フォーマット操作を行います。

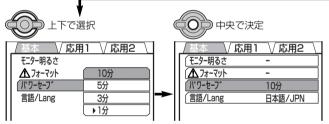
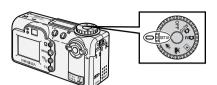
● フォーマット中は電源/アクセスランプが赤色で点滅します。点滅中はカードを抜かないでください。

パワーセーブまでの時間変更

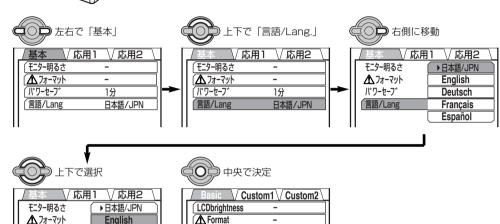
このカメラは、初期設定では約1分以上何も操作をしないでいると、自動的に省電力設定になり、上面データパネルが消灯します（パワーセーブ → P. 21）。このパワーセーブまでの時間を、1分、3分、5分、10分 のいずれかに変更することができます。

● 液晶モニターは約30秒間何も操作をしなければ消灯します。この時間の変更はできません。

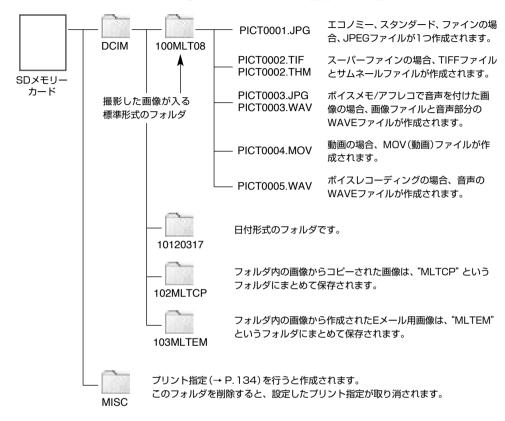
1. メインスイッチ/モード切り替えダイヤルを SETUP に合わせます。

2. 十字キーで、希望の設定を選びます。

言語設定

液晶モニターに表示される言語を、日本語/JPN、英語（English）、ドイツ語（Deutsch）、フランス語（Français）、スペイン語（Español）のなかから選ぶことができます。初期設定は日本語です。

1. メインスイッチ/モード切り替えダイヤルを SETUP に合わせます。

2. 十字キーで、希望の設定を選びます。

ファイルとフォルダ

フォルダ構成

ある画像を撮影すると、画像1つにつき1つまたは2つのファイルが作成され、SDメモリーカード内のフォルダに入れられます。カード内のファイルとフォルダの構成は以下の通りです。

フォルダ名とファイル名

フォルダ名について

標準形式の例： 100 MLT08　　日付形式の例： 100 20317

フォルダの通し番号（100〜）　識別文字　　フォルダの通し番号（100〜）　年(西暦の下1桁)月日

フォルダ名は、**標準形式**の場合 "フォルダの通し番号3桁" ＋ "識別文字5文字"、
日付形式の場合 "フォルダの通し番号3桁" ＋ "年(西暦の下1桁)月日" となります。
通し番号は "100" から始まり、フォルダが作成されるたびに 1つずつ増えて行きます。
標準形式のフォルダの場合、識別文字は "MLT08" です。
標準形式/日付形式いずれのフォルダの場合も、コピーされた画像の入るフォルダの識別文字は "MLTCP"、Eメール用画像の入るフォルダの識別文字は "MLTEM" です。

- フォルダの削除は、カメラをパソコンに接続してパソコン側で行なうか (→ P. 170〜)、カードをフォーマットしてください (→ P. 153)。

ファイル名について

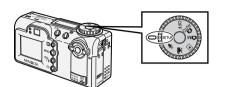
例： PICT 0001 .JPG

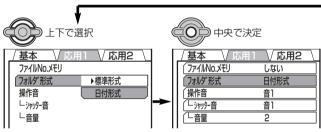
ファイルの通し番号（0001〜）　拡張子（ファイルの種類を識別する部分）

PICTの後の4桁の通し番号は、撮影するたびに1つずつ増えて行きます。カメラ側で消去された画像の番号は欠番となります。

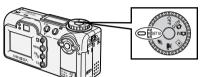
- ファイルの通し番号が "PICT9999" まで進むと、次の撮影で新たなフォルダが自動的に作成され、その中で再び "PICT0001" から画像の記録が開始されます。
- お使いのパソコンの設定によっては、拡張子が表示されない場合があります。

フォルダ形式の選択

撮影した画像が記録されるフォルダの形式を選ぶことができます。初期設定は標準形式です。
標準形式：フォルダの通し番号 + 識別文字 MLT08　　例）100MLT08
日付形式：フォルダの通し番号 + 年(西暦の下1桁)月日　　例）10120317

1. メインスイッチ/モード切り替えダイヤルを SETUP に合わせます。

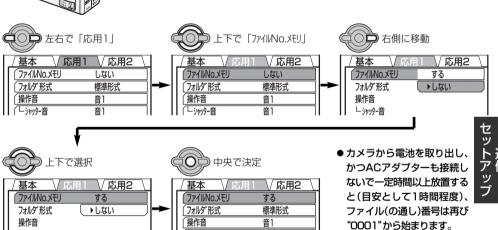
2. 十字キーで、希望の設定を選びます。

ファイルNo.メモリ

フォルダが変更されたり、全画像消去やカードのフォーマットを行うと、ファイル(の通し)番号は再び "0001" から始まります(ファイルNo.メモリ**しない**)。続き番号から始めるようにすることも可能です(ファイルNo.メモリ**する**)。
しない　：ファイルNo.メモリは機能しません。ファイル(の通し)番号は "0001" から始まります。
する　　：ファイルNo.メモリが機能します。フォルダが変更されたり、全画像消去やカードのフォーマットを行っても、ファイル(の通し)番号はそのまま続きます。

● ファイル(の通し)番号が "9999" まで進み、次の撮影で新たなフォルダが自動的に作成される場合は、ファイルNo.メモリーする/しないに関係なく、ファイル(の通し)番号は再び "0001" から始まります。

1. メインスイッチ/モード切り替えダイヤルを SETUP に合わせます。

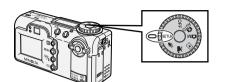
2. 十字キーで、希望の設定を選びます。

● カメラから電池を取り出し、かつACアダプターも接続しないで一定時間以上放置すると(目安として1時間程度)、ファイル(の通し)番号は再び "0001" から始まります。

操作音の設定

ボタンを押すなどカメラを操作したときの操作音を選びます。初期設定は 音1です。

音1　：　カチッカチッという機械的な音が鳴ります。

音2　：　ブザー音のような電子的な音が鳴ります。

なし　：　操作音は鳴りません。結婚式など音を立てたくない場合などにお使いください。

1. メインスイッチ/モード切り替えダイヤルを SETUP に合わせます。

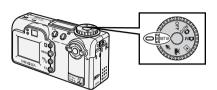
2. 十字キーで、希望の設定を選びます。

シャッター音の設定

シャッターボタンを押したときのシャッター音を選びます。初期設定は 音1です。

音1　：　ミノルタCLEのシャッター音を素材にした機械的なシャッター音が出ます。

音2　：　電子的なシャッター音が出ます。

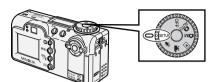
なし　：　シャッター音が出ません。結婚式など音を立てたくない場合などにお使いください。

1. メインスイッチ/モード切り替えダイヤルを SETUP に合わせます。

2. 十字キーで、希望の設定を選びます。

セットアップ 通信

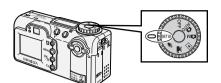
操作音の設定

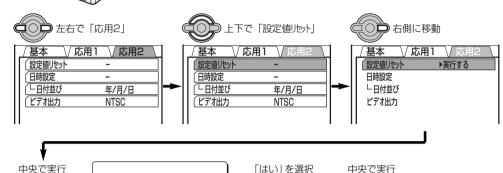
音量の設定

カメラを操作したときの操作音/シャッター音の大きさ（音量）を選びます。初期設定は 2 です。

1. メインスイッチ/モード切り替えダイヤルを SETUP に合わせます。

2. 十字キーで、希望の設定を選びます。

設定値リセット

カメラのほとんどの設定を、お買い上げ時の初期設定にもどすことができます。

1. メインスイッチ/モード切り替えダイヤルを SETUP に合わせます。

2. 十字キーで、希望の設定を選びます。

● リセットされる内容は、164～166ページの通りです。

（次ページに続く ☞）

設定値リセット

ボタンで設定するもの

項目	設定	ページ
デジタル撮影シーンセレクター	(フルオート)デジタル撮影シーンセレクター	35
フラッシュモード	自動発光	62
露出補正	なし(±0.0)	64

AUTO撮影モードメニュー

項目	設定	ページ
ドライブモード	1コマ撮影	46、47
画像サイズ	2272×1704	54
画質	スタンダード(STD.)	55
ボイスメモ	なし	58
デジタルズーム	なし	60

マニュアル撮影モードメニュー

項目	設定	ページ
露出モード	P(プログラム)	70、71
ドライブモード	1コマ撮影	46、47
画像サイズ	2272×1704	54
画質	スタンダード(STD.)	55
ホワイトバランス	Auto	76

マニュアル撮影モードメニュー

項目	設定	ページ
AFモード	ワンショットAF	80
フルタイムAF	なし	88
ピント位置表示	あり	90
測光モード	多分割	92
撮像感度	Auto	94
画像ｴﾌｪｸﾄｰｶﾗｰﾓｰﾄﾞ	標準カラー	96、98
画像ｴﾌｪｸﾄｰｼｬｰﾌﾟﾈｽ	標準	96、99
画像ｴﾌｪｸﾄｰｺﾝﾄﾗｽﾄ	標準	96、100
画像ｴﾌｪｸﾄｰ彩度	標準	96、101
ボイスメモ	なし	58
日付写し込み	なし	102
デジタルズーム	なし	60
アフタービュー	なし	104

(次ページに続く ☞)

設定値リセット

再生モードメニュー

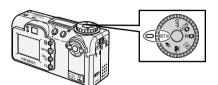
項目	設定	ページ
消去	このコマ	124
プロテクト	このコマ	126
スライドショー－再生画像	全コマ	131
スライドショー－間隔	5秒	132
スライドショー－繰り返し	しない	131
プリント指定	このコマ	134、135
インデックスプリント	しない	138
画像コピー	このコマ	139
Eメール画像作成	このコマ	144

セットアップモードメニュー

項目	設定	ページ
パワーセーブ	1分	154
ファイルNo.メモリ	しない	159
フォルダ形式	標準形式	158
操作音	音1	160
シャッター音	音1	161
音量	2	162

日時設定

日時の修正が必要な場合や「日付・時刻を設定してください」というメッセージが表示されたときは、以下の手順で行なってください。

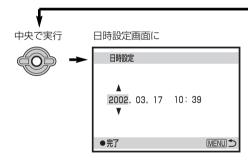
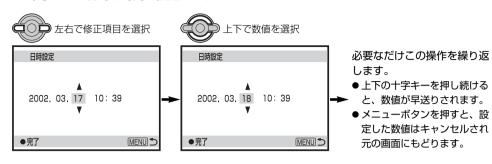
● カメラから電池を取り出し、かつ、ACアダプターも接続しないで一定時間以上放置すると（目安として１時間程度）、日付・時刻の設定が失われるため、「日付・時刻を設定してください」というメッセージが表示されます。

1. メインスイッチ/モード切り替えダイヤルを SETUP に合わせます。

2. 十字キーで、日時設定画面を表示させます。

中央で実行　日時設定画面に

（次ページに続く ☞）

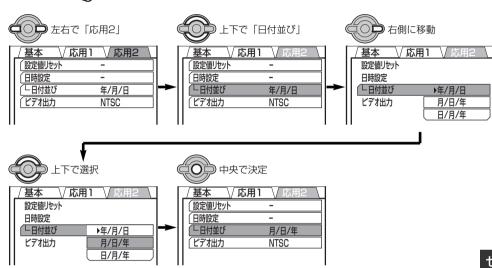
3. 十字キーで日時と時刻を設定します。

必要なだけこの操作を繰り返します。
- 上下の十字キーを押し続けると、数値が早送りされます。
- メニューボタンを押すと、設定した数値はキャンセルされ元の画面にもどります。

4. 十字キー中央の実行ボタンを押すと、時計がスタートします。

日付並び

「年月日」の並び順を、「月日年」または「日月年」に変えることができます。

1. メインスイッチ/モード切り替えダイヤルを SETUP に合わせます。

2. 十字キーで、希望の設定を選びます。

PCと接続して、PCに画像を取り込みます 通信編

この章では、付属のUSBケーブル USB-500 でカメラとパーソナルコンピュータ（以下、パソコン）とを接続して、カメラ内のSDメモリーカードに記録されている画像や音声、動画のファイルをパソコンに取り込んだり、パソコンからカメラ内のSDメモリーカードにファイルを書き込んだりする手順について説明しています。

付属のUSBケーブルでカメラとパソコンを接続しているときは、上面データパネルに ***USb*** の文字が現れます。

またこの間、液晶モニターには が表示されます。

パソコンに接続する（USB接続）

以下のパーソナルコンピュータ（以下パソコン）をお持ちの場合、カメラをパソコンに接続して、画像をパソコンに取り込むことが可能です。接続には付属のUSBケーブル USB-500 をお使いください。

USBポートを標準装備し、Windows®XP、Windows®Me、または、Windows®2000 Professional がインストールされた IBM PC/AT互換機

そのままカメラに接続してお使いになれます。→ P.172 〜

USBポートを標準装備し、Windows®98、または、Windows®98 Second Edition がインストールされた IBM PC/AT互換機

付属のディマージュソフトウェアCD-ROMから、ドライバをインストールする必要があります。その後カメラに接続してお使いください。→ P.178

USBポートを標準装備し、Mac OS 9 〜 9.2.2、または、Mac OS X v10.1 〜 10.1.3 がインストールされた Apple Macintosh

そのままカメラに接続してお使いになれます。→ P.172 〜

USBポートを標準装備し、Mac OS 8.6 がインストールされた Apple Macintosh

Apple Computer Inc.（米国アップルコンピュータ社）のWebサイトから対応ドライバ（USB Mass Storage Support）をダウンロードしてインストールする必要があります。詳しくはアップルコンピュータ社 http://www.apple.com/ にお問い合わせください。その後カメラに接続してお使いください。→ P.172 〜

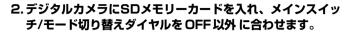
- **ご使用のOS環境において、USBポートがパソコンメーカーによって動作保証されていることが必要です。詳細はパソコンメーカーにお問い合わせください。**
- USBハブ経由で接続した場合は正常に動作しない場合があります。そのような場合は、パソコン本体のUSB端子に直接接続してください。
- 自作機、ショップブランドなどの各種ボード類を含めて組み立てられた機種は除きます。
- Windows®95やNT4.0は、USB接続は動作保証対象外ですが、市販のPCカードアダプタやカードリーダー等を用いて、カードの画像を直接パソコンで読み取ることは可能です。

使用環境についての最新の互換性情報は、裏表紙記載のフォトサポートセンターへお問い合わせいただくか、ミノルタ販売株式会社のホームページ http://www.minolta-sales.co.jp/ をご参照ください（ホームページより「サポート情報」のページをご参照ください）。

パソコンに接続する（USB接続）

デジタルカメラとパソコンを接続して、カメラをUSB接続モードにする

1. パソコンの電源を入れます。

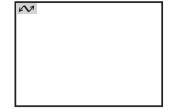
2. デジタルカメラにSDメモリーカードを入れ、メインスイッチ/モード切り替えダイヤルを OFF 以外 に合わせます。

● メインスイッチ/モード切り替えダイヤルは、OFF 以外ならどこに合わせても構いません。

3. 端子カバーを開け、付属のUSBケーブルの小さい方のコネクタを、USB端子に差し込みます（左図）。

● 奥まで確実に差し込んでください。

4. USBケーブルの大きいほうのコネクタを、パソコン本体のUSBポートに差し込みます。

● 奥まで確実に差し込んでください。

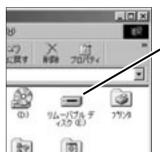
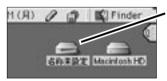
● USB接続は、接続する際にはカメラやパソコンの電源を入れたまま行なうことができますが、取り外す際には本書182、183ページに記載の手順にしたがってください。

5. 正しく接続されると、カメラがUSB接続モードになります。

● 液晶モニター画面左上に が表示されます。また、上面データパネルに USb と表示され、USB接続モードになったことをお知らせします。

USB接続モードになった後、パソコン上にSDメモリーカードがアイコンで表示されます。
→ 174ページ

セットアップ 通信

画像ファイルを開く

USB接続モードになると、カメラ内のSDメモリーカードの画像をパソコンで見ることができます。

Windows®98/98SE/Me/2000 Pro.では、SDメモリーカードがマイ コンピュータ上に「リムーバブル ディスク」として現れます。ダブルクリックすると開けることができます。

Macintosh(Mac OS 8.6〜9.2.2)では、SDメモリーカードがデスクトップ上に「名称未設定」として現れます。ダブルクリックすると開けることができます。

または

をダブルクリックして開きます

“DCIM” フォルダをダブルクリックして開きます

“100MLT08” フォルダをダブルクリックして開きます

カード内の画像ファイルが表示されます

左記の操作で表示されたSDメモリーカード内の画像ファイルは、通常のファイルと同じように、エクスプローラやFinder上でドラッグ& ドロップして、パソコンの任意の場所にコピー(保存)することができます。

- Windows®XPでは、USB接続モードでカメラ内のSDメモリーカードが認識されると、右の画面が現れます。Windows®に(自動)実行させたい操作を選んで [OK] をクリックしてください。

- Mac OS Xでは、SDメモリーカードがデスクトップ上に“NO_NAME”として現れます(右図)。

- 同時に通常では Image Capture アプリケーションが起動して、下の画面が現れます。

ダウンロード先を変更できます。

USB接続時に起動するアプリケーションを選択します。Image Capture以外のアプリケーションを選ぶこともできますし、何も起動しないように設定することも可能です。

上図の設定のままで [すべてをダウンロード] をクリックすると、静止画像はPicturesフォルダ(右図)に、動画はMoviesフォルダに、音声データはMusicフォルダに、それぞれコピーされます。

パソコンに接続する（USB接続）

● USB接続中は、カメラ⟷パソコン間で10分間以上データのやり取り（交信）が行われなかった場合、自動的にカメラの電源が切れた状態になり、USB接続が切断されます（パソコンによっては「デバイスを停止させないで取り外しました」等のメッセージが出ることもあります）。必要な画像をパソコンに取り込んだ後は、182、183ページに記載の手順にしたがってUSBケーブルを取り外すことをおすすめします。

● SDメモリーカードに該当するアイコンが表示されない（SDメモリーカードが認識されない）場合は、パソコンを再起動してください。それでも認識されない場合は → P. 184

● カメラをパソコンに接続して作業を行なう場合は、カメラの電池容量に注意してください。データ交信中に電池がなくなると、パソコンのエラーやSDメモリーカード内の画像データ破損の原因となります。別売のACアダプター AC-6の使用をおすすめします。

● カメラとパソコンを接続しているとき、特にデータの交信中には、以下の操作はしないでください。パソコンのエラーや、SDメモリーカード内の画像データ破損の原因となります。
・カメラのメインスイッチ/モード切り替えダイヤルを動かす。
・USBケーブルを取り外す。
・SDメモリーカードの出し入れを行なう。

● SDメモリーカードのフォーマットはカメラ側で行なってください（→ P. 153）。パソコンでSDメモリーカードをフォーマットすると、カメラ側でカードを認識しないことがあります。

● パソコンでSDメモリーカード内の画像データの**ファイル名を変更したり、カメラによる画像データ以外のデータを書き込んだりしないでください。**カメラで再生できないだけではなく、カメラの機能に支障をきたすことがあります。

撮影した画像をパソコンで表示させるのに必要なソフトウェア

このカメラで撮影した画像をパソコンで表示させるには、以下のソフトが必要です。

JPEG画像（エコノミー・スタンダード・ファインで撮影された画像）
最後に「.jpg」が付いているファイルで、一般的な画像表示ソフト等で開くことができます。お持ちでない場合は、付属のディマージュソフトウェアCD-ROMから「DiMAGE Viewer」をインストールしてお使いください。→ DiMAGE Viewer 使用説明書参照

TIFF画像（スーパーファインで撮影された画像）
最後に「.tif」が付いているファイルで、一般的な画像表示ソフト等で開くことができます。お持ちでない場合は、付属のディマージュソフトウェアCD-ROMから「DiMAGE Viewer」をインストールしてお使いください。→ DiMAGE Viewer 使用説明書参照

WAVEファイル（ボイスメモ/アフレコで画像に付けた音声、音声記録（ボイスレコーディング）で録音した音声）
最後に「.wav」が付いているファイル。OSに付属の音声再生ソフト（Windows Media Player、QuickTime Player等）で再生できます（画像と同時に再生することはできません）。

MOV（ムービー）ファイル（動画）
最後に「.mov」が付いているファイルで、再生するには 動画再生ソフトQuickTime Playerが必要です。Windows®で、お使いのパソコンにインストールされていない場合は、付属のディマージュソフトウェアCD-ROMからインストールしてお使いください。→ P.186
● Macintoshの場合、通常QuickTimeはインストール済みですので、そのままで再生が可能です。

サムネール画像
最後に「.thm」が付いているファイルです。DiMAGE Viewer のサムネール表示用です。

※ DiMAGE Viewer は Mac OS 8.6以前の Mac OS には対応しておりません。また2002年5月現在、Mac OS Xにも対応しておりません。

パソコンに接続する（USB接続）

Windows®98/98 Second Editionをお使いの場合

Windows®98/98 Second Editionをお使いの場合、付属のディマージュソフトウェアCD-ROMから、パソコンにドライバをインストールする必要があります。

●インストールの際には、別売のACアダプター AC-6のご使用をおすすめします。ACアダプターを使用しない場合は、電池の容量が十分に残っているか確認してからインストールを行ってください。インストールの途中で電池がなくなると、一度ドライバをアンインストールしてから再度インストールし直す必要があります（→ P. 184、185）。

1. ディマージュソフトウェアCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

●セット後しばらくすると、左図の画面が現れます。

2. [USBデバイスドライバ インストーラの起動] をクリックします。

3. 以下のインストール確認画面が出たら、[OK] をクリックします。

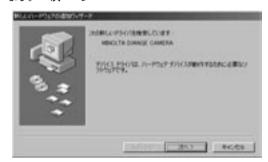
4. パソコンを再起動します。

●このカメラ（DiMAGE F100）でWindows®98/98 Second Edition用のドライバをインストールした後に、ミノルタ DiMAGE 7i/X/7/5/S304/2330 のWindows®98/98 Second Edition用ドライバをインストールすると、USB接続が認識されなくなることがあります（逆は問題ありません）。両方お持ちの場合は、DiMAGE F100のドライバをインストールするだけで上記のデジタルカメラすべてのUSB接続ができるようになります。

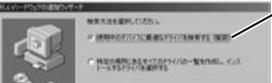
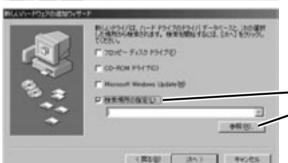
●お使いのパソコンの環境によっては、インストール中にWindowsシステムCD-ROMをセットするようメッセージが表示されることがあります。この場合はディマージュソフトウェアCD-ROMをWindowsシステムCD-ROMに差し替え、メッセージに従って操作してください。

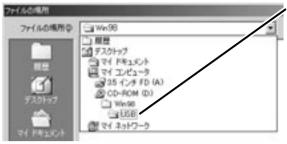
●インストール後、接続時に以下の画面が現れた場合は、もう一度ドライバをインストールする必要があります。→ 次ページ

セットアップ 通信

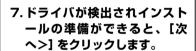
パソコンに接続する（USB接続）

Windows®98/98SE接続時に以下の画面が現れた場合は

お使いのパソコンの環境によっては、前ページの要領でドライバをインストールして「インストールを完了しました。」のメッセージが表示されても、正しくインストールされていないことがあります。左の画面が表示された場合は、以下の要領でドライバを再インストールしてください。

1.［次へ>］をクリックします。

2.［使用中のデバイスに最適なドライバを検索する（推奨）］を選択し、［次へ>］をクリックします。

3. ディマージュソフトウェアCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

4.［検索場所の指定］を選択し、［参照（R）］をクリックします。

5. 検索場所を、［CD-ROM］－［Win98］－［USB］の順に指定します。

6.［次へ>］をクリックします。

7. ドライバが検出されインストールの準備ができると、［次へ>］をクリックします。

8. インストールが完了すると、［完了］をクリックします。

● お使いのパソコンの環境によっては、インストール中にWindowsシステムCD-ROMをセットするようメッセージが表示されることがあります。この場合はディマージュソフトウェアCD-ROMをWindowsシステムCD-ROMに差し替え、メッセージに従って操作してください。

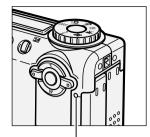
パソコンに接続する（USB接続）

USBケーブルの取り外し・接続中のカードの交換

USBケーブルを取り外す場合は、まず以下の操作を行なってください。パソコンに接続した状態でカメラ内のカードを交換する場合も、まず以下の操作でUSBケーブルを取り外してから交換してください。

電源/アクセスランプ

Windows®XP、Me、2000 Professional の場合

お使いのWindows®によって表示や文言が異なりますが、基本操作は同じです。

1. カメラの電源/アクセスランプが「**赤色で点滅していない**」ことを確認します。
2. タスクバー（パソコンの画面右下）に表示されている［ハードウェアの取り外しまたは取り出し］のアイコン（左図）を左クリックします。

3. ［USBディスクの停止］［USB大容量記憶装置デバイスを停止します（または安全に取り外します）］を左クリックします。

4. 安全に取り外しできるというメッセージが現れたら、［ OK ］をクリックします。
5. メインスイッチ/モード切り替えダイヤルを OFF 位置にしてカメラの電源を切ります。
6. USBケーブルを取り外します。

●前ページの2で、アイコンの左クリックの代わりに、ダブルクリックまたは右クリックも可能です。以下の手順に沿ってください。

1. ハードウェアの取り外し画面が現れたら、USBを選択して［停止］をクリックする。
2. ハードウェア デバイスの停止画面が現れたら、カメラを選択して［OK］をクリックする。
3. 安全に取り外しできるというメッセージが現れたら、［OK］をクリックする。
4. メインスイッチ/モード切り替えダイヤルをOFF位置にしてカメラの電源を切る。
5. USBケーブルを取り外す。

Windows®98 または 98 Second Editionの場合

1. カメラの電源/アクセスランプが「**赤色で点滅していない**」ことを確認します。
2. メインスイッチ/モード切り替えダイヤルを OFF 位置にしてカメラの電源を切ります。
3. USBケーブルを取り外します。

Macintoshの場合

1. カメラの電源/アクセスランプが「**赤色で点滅していない**」ことを確認します。
2. カードのアイコンをゴミ箱へ移します（ドラッグ＆ドロップします）。または、カードのアイコンをクリックして選択し、［ファイル］メニューの［片付ける］を選びます。
3. メインスイッチ/モード切り替えダイヤルを OFF 位置にしてカメラの電源を切ります。
4. USBケーブルを取り外します。

パソコンに接続する（USB接続）

USB接続ができないときは

Windows®をお使いの場合で、カメラをパソコンに接続してもカメラ内のカードが認識されなかった場合は、以下の方法でUSBドライバをいったん削除（アンインストール）し、その後再度接続してください。
弊社ホームページもご覧ください。　http://www.dimage.minolta.co.jp/

Windows®XP、2000 Professional の場合

1. カメラにカードを入れ、カメラとパソコンとを接続します。→ P. 172、173
   - パソコンにはデジタルカメラ以外の周辺機器を接続しないでください。
2. パソコンのデスクトップ上にある［マイコンピュータ］のアイコンを右クリックし、［プロパティ(R)］を選びます。
   - Windows®XPでデスクトップ上に［マイコンピュータ］のアイコンがない場合は、［スタート］→［コントロールパネル］→（［パフォーマンスとメンテナンス］）→［システム］と選択してください。
3. 「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されるので、［ハードウェア］のタブをクリックし、続いてその中の［デバイスマネージャ］をクリックします。
4. ［その他のデバイス］または［USBコントローラ］にカメラ名称を含む項目が表示されますので、その項目を選びます。
   - 項目の左側に「＋」が表示されているときは、まず「＋」をクリックしてください。
   - カメラ名称を含む項目が見当たらない場合は、「？」マークで表示されている項目を選んでください。
5. デバイスマネージャ画面の上部にある［操作(A)］メニューから［削除(U)...］を選んでクリックします。
6. 削除の確認画面が現れるので、［ OK ］をクリックします。
7. カメラの電源を切り、パソコンを再起動させます。

Windows®Me、98、98Second Editionの場合

1. カメラにカードを入れ、カメラとパソコンとを接続します。→ P. 172、173
   - パソコンにはデジタルカメラ以外の周辺機器を接続しないでください。
2. パソコンのデスクトップ上にある［マイコンピュータ］のアイコンを右クリックし、［プロパティ(R)］を選びます。
3. 「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されるので、［デバイスマネージャ］のタブをクリックします。
4. ［その他のデバイス］または［ユニバーサルシリアルバスコントローラ］にカメラ名称を含む項目が表示されますので、その項目を選びます。
   - 項目の左側に「＋」が表示されているときは、まず「＋」をクリックしてください。
   - カメラ名称を含む項目が見当たらない場合は、「？」または「！」マークで表示されている項目を選んでください。
5. デバイスマネージャ画面の下部にある［削除(E)］をクリックします。
6. 削除の確認画面が現れるので、［ OK ］をクリックします。
7. カメラの電源を切り、パソコンを再起動させます。
   Windows®98/98Second Editionの場合は、この後178ページの要領で再度ドライバをインストールします。

QuickTime™のインストール（Windows®のみ）

動画の再生にはQuickTime等の動画再生ソフトウェアが必要です。Windows®でお使いのパソコンにインストールされていない場合は、付属のCD-ROMからインストールしてください。

- Macintoshの場合、通常はQuickTimeはインストール済みですので、そのままで動画再生が可能です。

QuickTime 5.0 システム条件

- Pentium®プロセッサを搭載したPC互換コンピュータ
- 32MB以上のメモリ（RAM）
- Windows®95/98/NT/Me/2000/XP オペレーティングシステム
- Sound Blasterおよびその互換サウンドカード、スピーカー
- DirectX バージョン3.0以降推奨

QuickTimeのインストール

1. ディマージュソフトウェアCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

- しばらくすると左の画面が現れます。

2. ［QuickTimeインストーラの起動］をクリックします。

3. 画面の指示に従い、インストール作業を行ないます。

QuickTime Playerの使い方

1. QuickTime Player を立ち上げます。

- QuickTime Playerの（ショートカット）アイコンをダブルクリックするか、画面左下の［スタート］から［プログラム（P）］→［QuickTime］→［QuickTime Player］を選択します。

2. ［ファイル（F）］から［新規 Player でムービーを開く...（O）］を選択します。

3. 再生したい動画を選択し、［開く(O)］をクリックします。

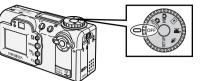
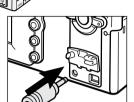
4. 動画ファイルを再生します。

操作方法について、詳しくはヘルプをご覧ください。

その他

このカメラと組み合わせて使用できるアクセサリー

ACアダプター AC-6

屋内などAC電源が使える場合は、ACアダプターの使用が便利です。

接続するときは、メインスイッチ/モード切り替えダイヤルをOFFに合わせた後、端子カバーを開けて、DC電源入力端子にACアダプターのプラグを差し込みます。

- 詳しくはACアダプターの使用説明書をご覧ください。
- このカメラには AC-6 以外のACアダプターは使用しないでください。

カメラケース CS-DG200

ディマージュ F100専用のカメラソフトケースです。

本革ネックストラップ NS-DG200

上質な本革を使用した、首下げ用のストラップです。（ストラップ長：47㎝）

IRリモコン RC-3

カメラから離れた位置から撮影することができます。

メッセージ一覧

メッセージ	原因	対処	ページ
カードが入っていません。	カードが入っていないと、撮影や再生はできません。	カードを入れてください。	22
カードがロックされています。	SDメモリーカードが書き込み禁止になっている。	カードのライトプロテクトスイッチを上げてください。	22
このカードは使えません。	カードをフォーマット(初期化)してください。それでも同じメッセージが出る場合は、カードを交換してください。		153
日付･時刻を設定してください。	一定時間電池を抜いたままにしておいたので(目安として1時間程度)、日時の設定が失われた。	日時を再設定してください。(お買い上げ後に初めて使用するときもこのメッセージが現れます。)	167
画像がありません。	画像が記録されていないカードを入れて再生モードにした。	画像の記録されているカードを入れるか、先に撮影を行ってください。	−−
表示できない画像です。	他のデジタルカメラで撮影した画像などは表示できない場合があります。		−−
音声を上書きしますか。	すでにボイスメモ、または、アフレコで音声を付けた画像に、さらにアフレコしようとしている。	ボイスメモ、または、アフレコは1つしか録音できません。新しい音声を上書きすると、古い音声は削除されます。	129
コマ指定してください。	「消去」「プロテクト」「画像コピー」等で[コマを指定]を選択したのに、コマを選ばずに実行した。	[コマを指定]を選んだときは、捜査の対象となるコマを十字キーの上キーで指定してください。	125 127 133 等
プロテクトされています。	プロテクト(誤消去防止の設定)された画像を消去しようとしている。	消去する場合は、先にプロテクトを解除してください。	126

あれ?と思ったときは

故障かな?と思ったときは、次のことを調べてみてください。それでも調子が悪いときや分からないときは、裏表紙記載の弊社フォトサポートセンターにお問い合わせください。

症状	原因	対策	ﾍﾟｰｼﾞ
液晶モニターが真っ暗になる	カメラをテレビに接続している	接続中は液晶モニターの表示は消灯します。	−
	電池が消耗している	電池を交換してください。	20
	パワーセーブが作動した	液晶モニターは30秒以上、上面データパネルは1分以上何も操作をしないでいると、節電のため自動的に消灯します。	21
液晶モニターが白黒になる	カラーモードが[B&W(白黒)]になっている	マニュアル撮影モードのメニューの「応用2」タブでカラーモードを[Color(カラー)]または[VIVID(ビビッド)]に設定してください。	97 98
オートフォーカスでピントが合わない	オートフォーカスの苦手な被写体(P. 32)を撮ろうとしている	フォーカスロック撮影、または、手動によるピント合わせで撮影してください。	32 84
	被写体に近づき過ぎている	カメラより約50㎝以上離れたものにしかピントが合いません。それ以上近くを撮影する時には、デジタル撮影シーンセレクターのマクロをお使いください。	28 37 38
000が表示されシャッターが切れない	カードがいっぱいである	画像を消去するか、カードを交換してください。	124 22

(次ページに続く ☞)

症状	原因	対策	ﾍﾟｰｼﾞ
シャッターが切れない（撮影できない）	大きいサイズで高画質（2272×1704のスーパーファイン画質など）の画像を撮影した	カードへの書き込みにしばらく時間がかかります。「カードに保存中」というメッセージが消えるまで撮影はしばらくお待ちください。	56
シャッター速度と絞り値が赤く表示される	被写体が明る過ぎ、または暗過ぎて、カメラの測光範囲またはシャッター速度や絞り値の範囲を超えている	明る過ぎるときは、被写体を暗くします。暗過ぎるときは、フラッシュを発光させるか、被写体を明るくします。	–
Aモードでシャッター速度が赤く表示される	被写体が明る過ぎ、または暗過ぎて、シャッター速度の範囲を超えている	シャッター速度が白く表示されるように絞り値を設定してください。	72
Sモードで絞り値が赤く表示される	被写体が明る過ぎ、または暗過ぎて、絞り値の範囲を超えている	絞り値が白く表示されるようにシャッター速度を設定してください。	74
フラッシュ撮影したものが全体的に暗い	フラッシュ光の届く範囲で撮影しなかった	フラッシュ撮影時は、フラッシュ光の届く範囲内で撮影してください。	34 95
写真がブレている	暗いところでフラッシュを使わずに撮影したので、手ブレを起こした	シャッター速度が遅くなるので、三脚を使用してください。フラッシュを使う方法もあります。	–
写真の一部が切れている	デジタル撮影シーンセレクタの「マクロ」で、ファインダーで構図を決めて撮影した。	デジタル撮影シーンセレクタの「マクロ」では、ファインダーで見る画面と撮影される画面にはズレが生じます。液晶モニターで構図を決めて撮影してください。	38

あれ？と思ったときは

症状	原因	対策	ﾍﾟｰｼﾞ
画面の一部に黒っぽいものが写っている	レンズ部分に指がかかっていた	ファインダーを使って撮影すると、レンズに指がかかっていても見えないことがあります。指がかからないようにして撮影してください。	25
光源や光がにじんだり、きれいに再現されない	レンズが汚れている	レンズ前面をクリーニングしてください。撮影時にはレンズ面に触れないようにしてください。	197
パソコンがカードを認識しない	USBドライバのインストールに失敗した	一度ドライバをアンインストールしてから、再度接続（または、再インストール）してください。	184 185
画像が記録されていない	画像の記録中にカードを取り出した	電源/アクセスランプが赤色で点滅中は、カードを取り出さないでください。	23
プリント指定ができない	動画を指定しようとしている	動画はプリント指定できません。	134
カメラが正常に作動しない	一度カメラの電源をOFFにして再度ONにしてください。それでも直らない場合は、カメラの電源をOFFにして電池を一度取り出し、入れ直してください。ACアダプター使用時は、一度プラグを抜いて、差し込み直してください。温度が上がっているときには、カメラの温度が下がってからこれらの処置を行なってください。それでも直らない場合や何度も繰り返す場合は故障ですので、お買い求めの販売店または裏表紙記載の弊社フォトサポートセンターにご相談ください。		

電池について

● 電池の性能は低温になるほど低下します。低温下では、新品電池を使う、予備の電池を保温しておいて交互に使う、などに留意してご使用ください。
ニッケル水素電池は低温での性能低下が少ないので、寒冷地ではニッケル水素電池の使用をおすすめします。また、低温のために性能が低下した電池でも、常温に戻せば性能は回復します。
● ニッケル水素電池をご使用のときは、長期間使用しない場合は電池を抜き取ってください。入れたままにしておくと、液漏れにより電池室を損傷する原因となります。
● いったん容量切れになった電池はかならず交換してください。容量切れ後、しばらく待って、わずかながら容量が回復した状態で再びカメラの電源を入れると、カメラが正常に作動しない場合があります。

使用温度について

● このカメラの使用温度範囲は0～40℃です。
● 直射日光下の車内など極度の高温下や、湿度の高いところに放置しないでください。
● カメラに急激な温度変化を与えるとカメラ内部に水滴を生じる危険性があります。スキー場のような寒い屋外から暖かい室内に持ち込む場合は、寒い屋外でカメラをビニール袋などに入れ、袋の中の空気を絞り出して密閉します。その後室内に持ち込み、周囲の温度に充分なじませてからカメラを取り出してください。

プリント指定（DPOF）について

● 他のデジタルカメラでDPOF設定したカードをこのカメラに入れると、他のカメラでの設定はキャンセルされます。
● 他のDCF対応のデジタルカメラで撮影した画像の入ったカードをこのカメラに入れた場合、他のカメラで撮影した画像（他のDCF対応デジタルカメラによって作成されたフォルダ内の画像）に対してはDPOFの設定はできません。

SDメモリーカード、マルチメディアカードについて

● 下記の場合、記録されたデータが消去（破壊）されることがあります。データの消去については当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。大切なデータは、別のメディア（ハードディスク、CD-ROM等）にバックアップを取っておくことをおすすめします。
1. お客様または第三者がカードの使い方を誤ったとき
2. カードが静電気や電気的ノイズの影響を受けたとき
3. カードへのアクセス中（記録中、フォーマット中など）に、カードを取り出したり、機器の電源を切ったとき
4. 長期間カードの書き換えがないとき
5. カードの耐用回数を超えて書き換えを行ったとき
● カードをフォーマット（初期化）すると、記録されているデータはすべて消去されます。必要なデータは必ずバックアップを取ってください。
● カードには寿命がありますので、長期間ご使用になるとデータの記録や再生ができなくなる場合があります。このときは新しいカードをお買い求めください。
● 強い静電気や電気的ノイズの発生しやすい環境でのご使用、保管は避けてください
● 曲げたり落としたり、強い衝撃や高熱を与えないでください。
● 強い静電気や強い衝撃によってカードが破壊され、データの記録や再生ができなくなる場合があります。このときは新しいカードをお買い求めください。
● 端子部に手や金属で触れないでください。
● 熱、水分、直射日光を避けて使用および保管してください。

（次ページに続く ☞）

取り扱い上の注意

液晶モニターについて

- 液晶モニターは精密度の高い技術でつくられていますが、極めてわずかながら画素欠けや常時点灯するものがあります。
- 液晶モニターを強く押さえないでください。画面にムラが出たり、故障の原因になります。
- 寒いところで使うと、始めは画面が通常より少し暗くなります。カメラ本体内部の温度が上がってくると、通常の明るさになります。
- 液晶表示は、低温下で反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻せば正常に作動します。
- 液晶モニターに指紋等が付着して汚れたときは、乾いた柔らかい布で、傷などがつかないよう軽くふいてください。

その他

- カメラに強い衝撃を与えないでください。
- バッグなどに入れて持ち運ぶときは、カメラの電源を切ってください。
- このカメラは防水設計にはなっていません。濡れた手で電池やSDメモリーカード/マルチメディアカードの出し入れ、カメラの操作をしないでください。
  海辺等で使用されるときは、水や砂がかからないよう特に注意してください。水、砂、ホコリ、塩分等がカメラに残っていると、故障の原因になります。
- 直接太陽を撮影したり、直射日光の当たる場所に放置しないでください。CCD（撮像素子）の性能を損なうことがあります。
- あなたがデジタルカメラで撮影したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。また実演や興業、展示物の中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合があります。なお、著作権の目的となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する場合以外はご利用いただけません。

手入れと保管のしかた

手入れのしかた

- カメラの外側を清掃するときは、柔らかいきれいな乾いた布で軽くふいてください。砂がついたときは、こするとカメラに傷をつけますので、ブロアーで軽く吹き飛ばしてください。
- レンズ面を清掃するときは、ブロアブラシでホコリ等を取り除いてください。汚れがひどい場合は、柔らかい布やレンズティッシュにレンズクリーナーを染み込ませ、レンズの中央から円を描くように軽くふいてください。レンズクリーナーを直接レンズ面にかけることはお避けください。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使用しないでください。
- レンズ面に直接指で触れないでください。

保管のしかた

- 涼しく、乾燥していて、風通しのよい、ホコリや化学薬品のないところに保管してください。長期間の保存には、密閉した容器に乾燥剤と一緒にいれるとより安全です。
- 長期間使用しないときは、カメラから電池やカードを取り出してください。
- 防虫剤の入ったタンスなどに保管しないでください。
- 保管中も時々電源を入れて、シャッターを切るようにしてください。また、ご使用前には整備点検されることをおすすめします。

海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは

- 前もって作動の確認、またはテスト撮影をしてからご使用ください。また予備の電池を携帯することをおすすめします。
- 万一このカメラを使用中に、撮影できなかったり、不具合が生じた場合の補償についてはご容赦ください。

アフターサービスについて

- 本製品の補修用性能部品は、生産終了後7年間を目安に保有しています。
- 製品の修理に関しては、お買い上げいただいた販売店にお問い合わせいただくか、修理依頼品を「アフターサービスのご案内」に記載のサービスセンター・サービスステーションにお持ち込みください。

主な性能

形式	フラッシュ内蔵コンパクトタイプデジタルカメラ
撮像素子	1/1.8型総画素413万画素インターラインCCD、補色フィルター付き
有効画素数	395万画素
レンズ構成	7群8枚
開放絞り値	F2.8〜F4.7
設定可能絞り値	広角：F2.8〜F8.0（1/2ステップ毎）、望遠：F4.7〜F8.0（1/2ステップ毎）
焦点距離	7.8〜23.4㎜（35㎜フィルム換算：38〜114㎜相当）
撮影距離	広角：0.5m〜∞（CCD面から）、0.45m〜∞（鏡胴先端から） 望遠：0.5m〜∞（CCD面から）、0.45m〜∞（鏡胴先端から） マクロ時（焦点距離23.4㎜）：20㎝〜60㎝（CCD面から）、14.5㎝〜54.5㎝（鏡胴先端から） 最大撮影倍率：0.17（35㎜フィルム換算で 0.74倍相当） 最大撮影倍率時の被写体サイズ：約42.0×31.7㎜
ズーム方式	電動ズーム
フォーカス方式	映像AF方式
フォーカスモード	オートフォーカス（追尾AF、ワンショットAF）、フルタイムAF選択可能、マニュアルフォーカスに切り替え可能
AFフレーム	ワイドフォーカスフレーム（エリアAF）、ローカルフォーカスフレームに切り替え可能（フォーカスエリアセレクト機能）
露出モード	P（プログラム）、A（絞り優先）、S（シャッター速度優先）、M（マニュアル）
デジタル撮影シーンセレクター	フルオート（自動選択）時：ポートレート、スポーツ、風景、夕景、夜景 任意選択時：マクロ、ポートレート、スポーツ、風景、夕景、夜景ポートレート・夜景
画像エフェクト	カラーモード、シャープネス、コントラスト、彩度 の各調整が可能
測光方式	多分割測光（256分割）、スポット測光
露出制御範囲	広角：EV1.0〜16、望遠：EV3.0〜16
シャッター	CCD電子シャッターと電子制御メカニカルシャッター併用　シャッター速度：BULB（最長15秒）、4秒〜1/1000秒
ホワイトバランス	オート、プリセット（昼光、白熱灯、蛍光灯、曇天）、カスタム設定
露出補正	±2EV（1/3EVステップ）
フラッシュ制御方式	TTL調光
フラッシュモード	AUTO撮影時 および Pモード時：自動発光、赤目軽減自動発光、強制発光、発光禁止 A/S/Mモード（マニュアル撮影）時：強制発光、赤目軽減強制発光、発光禁止
内蔵フラッシュ連動距離	広角：約0.5〜2.9m、望遠：約0.5〜1.7m（CCD位置より、撮影感度オート時）
内蔵フラッシュ充電時間	約5秒
ファインダー形式	実像式光学ズームファインダー
ファインダー視野率	約80%
アイポイント	21.4㎜（最終光学面より）、18㎜（接眼枠より）
ファインダー倍率	0.35〜1.00倍
A/D変換bit数	12 bit
記録媒体	SDメモリーカード、マルチメディアカード
記録ファイルフォーマット	JPEG、TIFF、Motion JPEG（MOV、音声付き）、WAVE DCF 1.0準拠　DPOF（ver.1.1）のプリント機能に対応
Exif Print	対応
PIM (Print Image Matching)	対応
記録画素数	2272×1704、1600×1200、1280×960、640×480
カラーモード	VIVID（ビビッド）カラー、標準カラー、モノクロ
画質モード	エコノミー（ECON.）、スタンダード（STD.）、ファイン（FINE）、スーパーファイン（S.FIN）
シャープネス	ソフト、標準、ハード の3段階に調節可能
コントラスト	強い、標準、弱い の3段階に調節可能
彩度	あざやか、標準、おちついた の3段階に調節可能
Exif Tag情報	撮影年月日時刻、撮影条件（露出モード、シャッター速度、絞り値、露出補正値、測光方式、フラッシュ発光の有無、撮像感度、ホワイトバランス、焦点距離等）、色空間情報

主な性能

消去機能	あり（1コマ／全コマ／指定コマ）　クイックビュー時の消去可能 誤消去防止機能：あり（1コマ／全コマ／指定コマ）
フォーマット機能	あり
日付写し込み機能	あり　写し込みなし選択可能
液晶モニター	38㎜（1.5型）低温ポリシリコンTFTカラー モニター画素数：11万画素 視野率：約100% モニター輝度：調整可能（±5段階）
表示内容	撮影時：ライブビュー、各種状態表示、アフタービュー 再生時：再生画像（1コマ、インデックス6コマ、スライドショー、動画）、各種状態表示
拡大再生	1.5倍から5.0倍まで、0.5倍刻み　十字キー中央の実行ボタンで、拡大縮小画面←→移動画面 切り替え可
連続撮影	約1.5コマ/秒（シャッター音なし）、約1.2コマ/秒（シャッター音あり） 連続撮影速度は撮影条件による　スーパーファインは連続撮影不可能
セルフタイマー	約10秒
ブラケット撮影	露出ずらし量：1.0EV、0.5EV、0.3EV　枚数：3枚
リモコン撮影	別売アクセサリー RC-3使用により可能
動画	ファイル形式：Motion-JPEG（MOV）、記録画素数：320×240、フレームレート：15フレーム/秒、録画時間：1クリップあたり最大35秒 モノラル音声付き、再生時 音量調節可
音声	静止画のボイスメモ時の記録時間：5秒/15秒 選択可能、モノラル 静止画のアフレコ時の記録時間：最大15秒、モノラル ボイスレコーディング（音声のみ）時の記録時間：最大30分、モノラル 再生時 音量調節可
デジタルズーム	1.25倍から2.5倍まで、0.25倍刻み
画像コピー	あり
Eメール画像作成	あり：640×480にサイズ変更してコピー
操作音	3段階切り替え可、ダイヤル/ボタン/キー操作音とシャッター音は、機械音と電子音とを選択可、操作音なしも選択可
使用電池	二酸化マンガンリチウム電池 CR-V3×1本、または、単3形ニッケル水素電池×2本
外部電源	DC 3V（ACアダプター使用時）
連続動作時間	連続再生：約240分（CR-V3使用時） 約120分（ニッケル水素電池（1700mAh）使用時）

撮影可能コマ数

	液晶モニターON（点灯）	液晶モニターOFF（消灯）
CR-V3使用時	約220コマ	約620コマ
ニッケル水素電池使用時	約120コマ	約320コマ

当社試験条件による（画像サイズ：2272×1704、画質：スタンダード、アフタービュー：なし、ボイスメモ：なし、フラッシュ使用：50%、ニッケル水素電池は1700mAhタイプを使用）

PC用インターフェース	USB（ver.1.1）
対応OS	Windows® XP/2000 Professional/Me/98 Second Edition/98 Mac OS 8.6 〜 9.2.2 / Mac OS X v10.1 〜 10.1.3
AV出力	NTSC/PAL切り替え可
大きさ	111（幅）×52.3（高さ）×32（奥行）㎜
質量（重さ）	約185g（電池、SDメモリーカード別）

本書に記載の性能は当社試験条件によります。
本書に記載の性能および外観は、都合により予告なく変更することがあります。

索引

MEMO